Cisco Configuration Assistant クイック スタート ガイド 1.9

Getting Started With Cisco Configuration Assistant 1.9

バージョン 1.9

Text Part Number: OL-12784-06-J

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。

本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動 / 変更されている場合がありますことをご了承ください。
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system.All rights reserved.Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコシステムズおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコシステムズおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコシステムズまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

CCDE, CCSI, CCENT, Cisco Eos, Cisco HealthPresence, the Cisco logo, Cisco Lumin, Cisco Nexus, Cisco Nurse Connect, Cisco Stackpower, Cisco StadiumVision, Cisco TelePresence, Cisco WebEx, DCE, and Welcome to the Human Network are trademarks; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn and Cisco Store are service marks; and Access Registrar, Aironet, AsyncOS, Bringing the Meeting To You, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, CCVP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Collaboration Without Limitation, EtherFast, EtherSwitch, Event Center, Fast Step, Follow Me Browsing, FormShare, GigaDrive, HomeLink, Internet Quotient, IOS, iPhone, iQuick Study, IronPort, the IronPort logo, LightStream, Linksys, MediaTone, MeetingPlace, MeetingPlace Chime Sound, MGX, Networkers, Networking Academy, Network Registrar, PCNow, PIX, PowerPanels, ProConnect, ScriptShare, SenderBase, SMARTnet, Spectrum Expert, StackWise, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, TransPath, WebEx, and the WebEx logo are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (0903R)

Cisco Configuration Assistant クイック スタート ガイド
© 2009 Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.

Copyright © 2009–2010, シスコシステムズ合同会社 .
All rights reserved.

CONTENTS

はじめに v

対象読者 v

目的 v

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート v

CHAPTER 1 Cisco Configuration Assistant とは 1-1

コミュニティの特性 1-1

コミュニティの表示 1-2

CHAPTER 2 GUI の機能 2-1

トポロジ ビュー 2-2

前面パネル ビュー 2-3

メニューバー、ツールバー、および機能バー 2-4

メニューバー 2-4

機能バー 2-4

ツールバー 2-6

対話モード 2-7

ガイド モード 2-7

エキスパート モード 2-8

スマートポート 2-9

環境設定の設定 2-9

アプリケーション更新 2-10

オンライン ヘルプ 2-10

CHAPTER 3 インストール、接続、およびセットアップ 3-1

インストールの要件 3-1

Configuration Assistant のインストール 3-2

Configuration Assistant の接続 3-2

UC500 のシステム ロケールの変更 3-3

デバイスのセットアップ 3-5

イベント通知 3-5

設定の保存 3-5

CHAPTER 4 コミュニティの計画と作成 4-1
コミュニティの計画 4-1
メンバおよび候補の特性 4-1
コミュニティ デバイスの制限 4-1
候補とメンバの自動検出 4-2
コミュニティ名 4-2
ホスト名 4-2
パスワード 4-3
通信プロトコル 4-3
コミュニティの情報 4-3
コミュニティの作成 4-3
デバイスのグループの追加 4-4
一度に 1 つのデバイスの追加 4-4
コミュニティの確認 4-4

CHAPTER 5 UC500 および SR500 セキュア ルータのセットアップ 5-1
Cisco UC500 の設定 5-2
Cisco SR500 の設定 5-8
コミュニティの作成 5-13

CHAPTER 6 メンテナンスとアップグレード 6-1
設定のバックアップと復元 6-1
設定をバックアップするには 6-1
バックアップから設定を復元するには 6-2
バックアップの環境設定 6-2
ソフトウェア ライセンスのアップグレード 6-3
UC500 ソフトウェア パッケージのアップグレード 6-4
デバイスの再起動とリセット 6-6

CHAPTER 7 SBCS の計画、設計、および実装のサポート 7-1
製品マニュアル 7-1
Cisco Small Business Support Community サイト 7-2
PDI ヘルプ デスク 7-2
Cisco Smart Design マニュアル 7-3

INDEX

はじめに

対象読者

このマニュアルは、GUI を使用して Cisco Smart Business Communication System（SBCS）のスタンドアロンのネットワーク デバイスやデバイスのグループを管理するシステム管理者およびネットワーク管理者を対象としています。このマニュアルでは、Cisco Configuration Assistant（CCA）をソリューションとして紹介します。

目的

このマニュアルの目的は、Configuration Assistant を使用するユーザを支援することです。マニュアルは次の章で構成されています。

- 概要：Configuration Assistant の特性と機能
- GUI の機能：Configuration Assistant を使用したデバイスおよびネットワークの管理方法
- インストール、接続、およびセットアップ：ワークステーションへの Configuration Assistant のインストール方法、デバイスまたはコミュニティへの接続方法、および管理対象とするデバイスをセットアップする方法
- コミュニティの計画と作成：コミュニティの計画および作成の概念と手順
- UC500 および SR500 セキュア ルータのセットアップ:SR500 セキュア ルータを UC500 プラットフォームに接続して、SBCS ソリューションの高度なセキュリティ機能を提供する方法
- メンテナンス：一般的なメンテナンスおよび操作のタスクについて
- SBCS 設計、実装、およびサポートのリソース：プロジェクトの各段階で役立つ CCA および Cisco SBCS リソースのリスト

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報について、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダー アプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。

CHAPTER 1

Cisco Configuration Assistant とは

Configuration Assistant は、スタンドアロンのデバイスやデバイス グループ（コミュニティと呼ぶ）を、イントラネット上の任意の場所から管理するために使用できるアプリケーションです。Configuration Assistant のグラフィカル インターフェイスを使用して、次の操作を実行できます。

- Cisco Smart Business Communications System（SBCS）デバイスのセットアップ
- ポート接続の迅速な設定
- コミュニティの IP テレフォニー機能の設定
- IP 音声デバイスでのテレフォニー ライセンスの管理
- ネットワーク アドレス変換、バーチャル プライベート ネットワーク、およびファイアウォールのセットアップ
- 無線セキュリティおよび無線ゲスト アクセスを含むコミュニティの無線 LAN 機能の設定
- ネットワーク セキュリティの管理と監査
- トポロジ マップでのコミュニティ全体の表示
- コミュニティ メンバの前面パネルの表示
- デバイスのステータス、帯域幅、およびリンクの監視
- インベントリと統計情報のレポートの表示
- デバイス上のソフトウェアのアップグレード

これらのタスクのいずれかを実行するには、「機能バー」（P.2-4）に示す Configuration Assistant の機能バーから該当する機能を選択します。

コミュニティの特性

コミュニティを作成する主な理由は、コミュニティでは、デバイスの物理的な位置およびデバイスにインストールされているソフトウェアに関係なく、同じ論理グループでシスコのデバイスを管理できるということです。複数のコミュニティを作成、変更、削除、および管理できます。

コミュニティを使用する利点は、UC500 と SR500 などの複数のデバイスを、各デバイスへ個別に再接続することなく単一のセッションで設定できることです。コミュニティを使用すると、Cisco Configuration Assistant では複数のプラットフォームにまたがった VLAN の同期など、ソリューション レベルの機能を実装できます。

コミュニティには、最大 25 の接続されたネットワーク デバイスを含めることができます。各デバイスには、IP アドレスが割り当てられている必要があります。Configuration Assistant では、Cisco Discovery Protocol（CDP; シスコ検出プロトコル）による自動検出機能を使用して、適切なネットワーク デバイスを検出し、コミュニティに追加できます。デバイスで CDP が有効になっていない場合でも、コミュニティを作成してデバイスに手動で追加できます。

Configuration Assistant では、コミュニティ内のすべてのメンバと安全に通信できます。あるコミュニティ メンバに障害が発生しても、他のメンバを引き続き管理できます。

ほとんどのタイプのネットワーク デバイス（ルータ、スイッチ、および無線 LAN コントローラ）はコミュニティに所属できます。使用できるデバイスの詳細なリストについては、リリース ノートを参照してください。コミュニティの作成方法の詳細については、第 4 章「コミュニティの計画と作成」を参照してください。

コミュニティの表示

Configuration Assistant では、コミュニティを次の 2 つの方法でグラフィカルに表示できます。

- トポロジ ビュー。メンバ デバイス、隣接デバイス、デバイスのステータス、デバイスのプロパティ、およびリンク情報を表示します。
- 前面パネル ビュー。デバイスおよびポートのステータスをリアルタイムに監視し、多数の設定タスクを実行できます。このビューでのデバイスおよびポート LED は、物理的なデバイスおよびポート LED と外観が似ています。

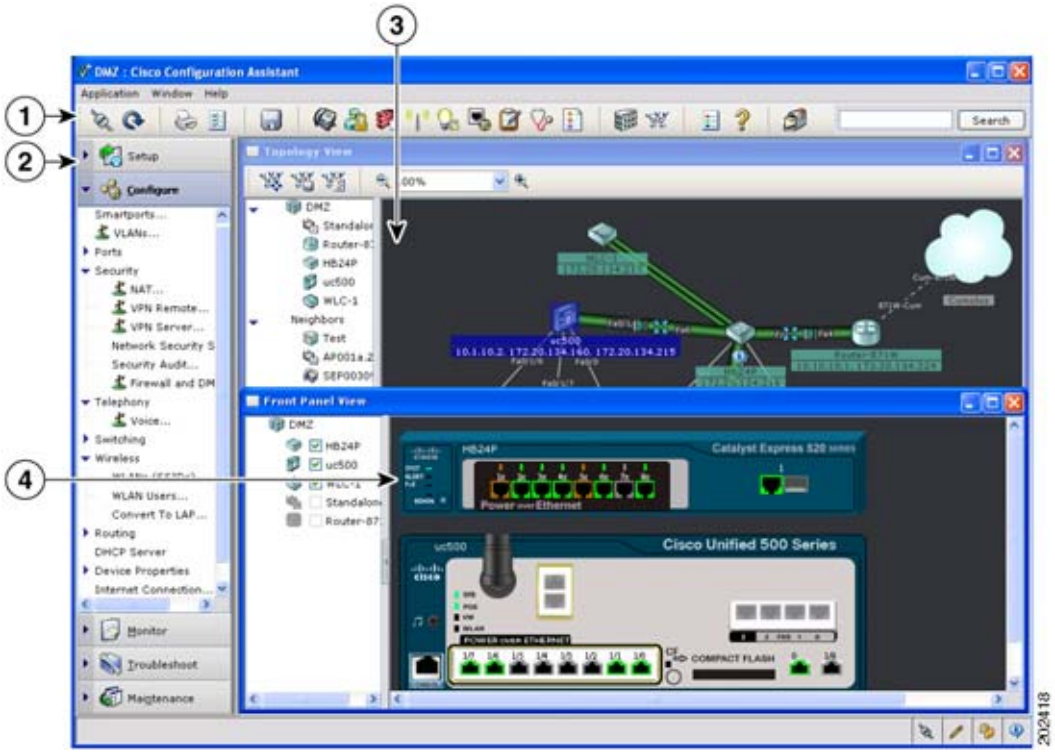
これらのビューの例を表示するには、「トポロジ ビュー」（P.2-2）および「前面パネル ビュー」（P.2-3）を参照してください。

CHAPTER 2

GUI の機能

Configuration Assistant を使用すると、コミュニティのさまざまなビュー、メニュー バー、ツール バー、機能バー、デバイス設定用の 2 つのモード、および包括的なオンライン ヘルプにより、コミュニティの管理が簡略化されます。図 2-1 に、GUI の主な機能を示します。

図 2-1　　Configuration Assistant の GUI



1	ツールバー	3	トポロジ ビュー
2	機能バー	4	前面パネル ビュー

後続のセクションで、Configuration Assistant の機能について説明します。

トポロジ ビュー

Configuration Assistant がスタンドアロン デバイスまたはコミュニティに接続している場合、デフォルトではトポロジ ビューが表示されます。このデフォルトを変更した場合、ツールバーのトポロジ ビューのアイコンをクリックするか、[モニタ（Monitor）] > [ビュー（Views）] > [トポロジ（Topology）] を選択することにより、トポロジ ビューを表示できます。

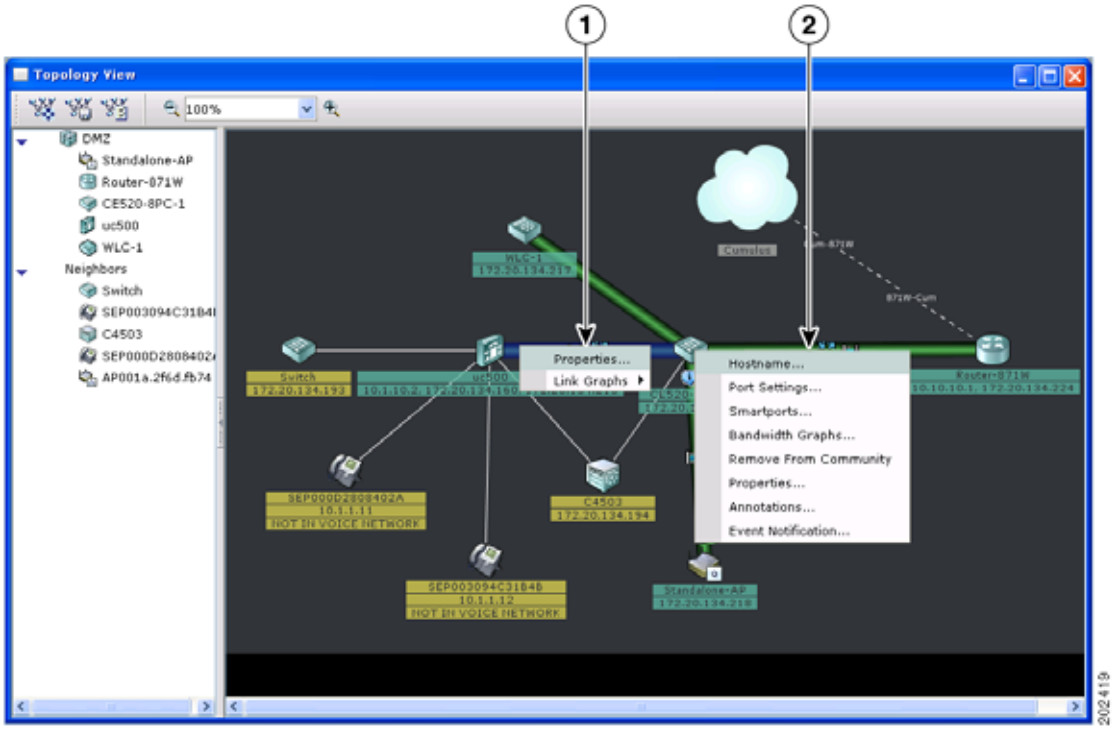
（注）　Configuration Assistant 内の環境設定を変更して、デフォルトで前面パネル ビューを表示することができます。これには、メインメニューから [システム（System）] > [環境設定（Preferences）] を選択して [全般（General）] タブを選び、[ネットワーク接続時に前面パネルビューを表示する（Show Front Panel View when connected to network）] を選択します。Configuration Assistant でデフォルトでトポロジ ビューが表示されないようにするには、[ネットワーク接続時にトポロジビューを表示する（Show Topology View when connected to a network）] の選択を解除します。

トポロジ ビューには、コミュニティにおけるデバイスの接続状況が表示されます。コミュニティ内の VLAN リンクを強調表示して表示することもできます。隣接デバイスをコミュニティのメンバにすることも、メンバを削除することもできます。

図 2-2 のトポロジ ビューの例では、コミュニティ、隣接デバイス、およびデバイスまたはリンクのアイコンを右クリックすると表示されるポップアップ ウィンドウを示しています（開くことのできるポップアップ ウィンドウは一度に 1 つだけです）。

このビューで IP フォンを右クリックすると、電話を再起動するオプションと一緒に電話のプロパティ（読み取り専用）が表示されます。これには、電話のタイプ（モデル）、ホスト名、ユーザ、LAN IP アドレス、MAC アドレス、ボタン レイアウト、および内線番号が表示されます。

図 2-2　トポロジ ビューとポップアップ ウィンドウ



1	リンクのポップアップ ウィンドウ	2	デバイスのポップアップ ウィンドウ

前面パネル ビュー

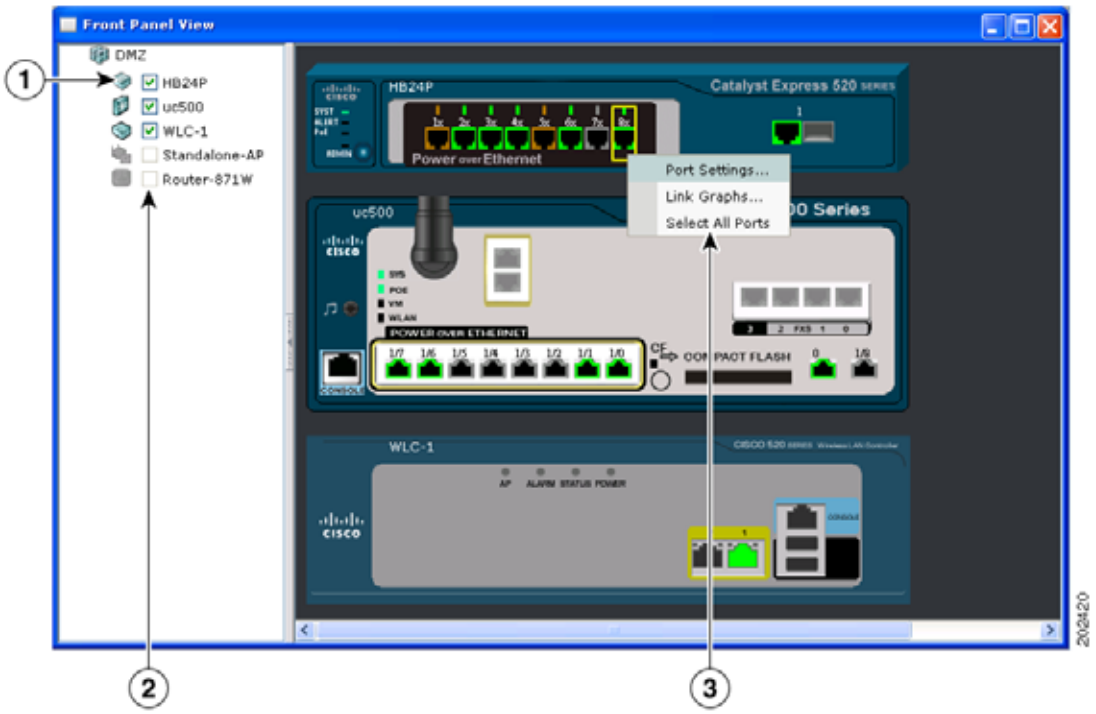
Configuration Assistant がスタンドアロン デバイスまたはコミュニティに接続している場合、ツールバーの [前面パネル（Front Panel）] をクリックするか、または機能バーで [モニタ（Monitor）] > [ビュー（Views）] > [前面パネル（Front Panel）] を選択して、前面パネル ビューを表示できます。スタンドアロン デバイスまたはコミュニティ メンバの前面パネルのイメージを確認できます。ビューの左側のペインはツリー構造になっています。そこから、右側のペインで表示するデバイスを選択できます。

前面パネル ビューでは次の操作を実行できます。

- 表示されているデバイスをドラッグして再配置する。
- デバイスを選択して設定する。
- ポートを右クリックして設定する。
- 同一デバイスまたは異なるデバイスから複数のポートを選択し、それらのポートを同時に設定する。

図 2-3 はコミュニティと、そのメンバである Unified Communications 500 シリーズ プラットフォーム、Catalyst Express 520 スイッチ、526 WLAN コントローラを示しています。

図 2-3　　前面パネル ビューとポートのポップアップ ウィンドウ



1	メンバ デバイス	3	設定のポップアップ ウィンドウ
2	表示するデバイスを選択するためのチェックボックス		

メニューバー、ツールバー、および機能バー

メニューバーには、Configuration Assistant 自体を設定するためのオプションがあります。機能バーには、スタンドアロン デバイスまたはコミュニティを設定、監視、トラブルシューティング、および監視するための機能が表示されます。ツールバーには、頻繁に使用する Configuration Assistant の機能とイーサネットの機能の組み合わせが表示されます。

メニューバー

メニューバーには、Configuration Assistant の管理、ウィンドウ間の移動、オンライン ヘルプへのアクセスに使用する次のオプションが用意されています。

- システム：印刷オプションの選択、対話モードの選択、ユーザ環境設定の設定、Configuration Assistant の更新の検索とインストール、機能バーの表示と非表示の切り替え、コミュニティの作成と変更、およびシステム メッセージ通知の要求を行います。
- ウィンドウ：Configuration Assistant のトポロジ ビューまたは前面パネル ビューを開いて移動します。
- ヘルプ：オンライン ヘルプを開きます。

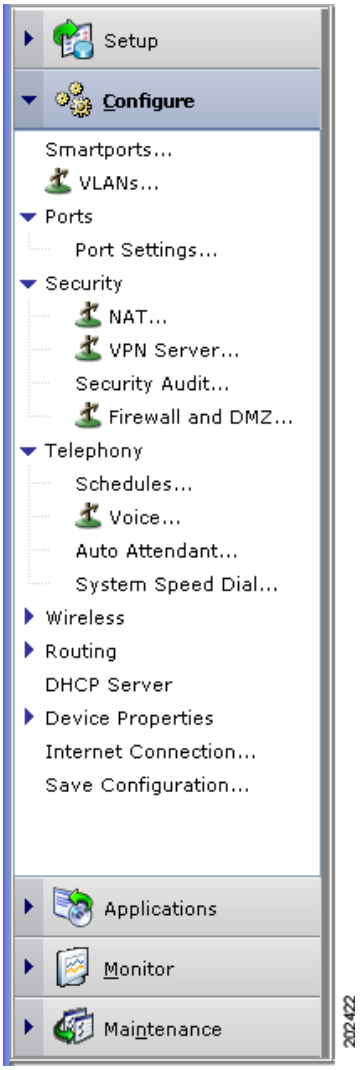
機能バー

機能バーには、管理しているデバイスのために設定できる機能が表示されます。デフォルトで、機能バーは標準モードになっています。このモードでは、機能バーは常に表示されており、ユーザがその幅を調節できます。自動非表示モードでは、機能バーは、ユーザが Configuration Assistant の作業スペースの左端にカーソルを移動したときにのみ表示されます。

- 機能バーを標準モードで表示するには、[システム（System）] > [機能バー（Feature Bar）] をクリックし、[標準モード（Standard Mode）] を選択します。
- 機能バーを非表示にするには、[システム（System）] > [機能バー（Feature Bar）] をクリックし、[自動非表示モード（Autohide Mode）] を選択します。

図 2-4 は、機能バーを示しています。

図 2-4　機能バー



機能はメニューの下にグループ化されます。メニュー項目をクリックすると、その機能の設定ウィンドウが表示されます。

機能が使用可能かどうかはアクセス モードに依存します。一部の機能は読み取り専用モードでは使用できません。アクセス モードが Configuration Assistant に与える影響の詳細については、「環境設定の設定」（P.2-9）を参照してください。

ツールバー

ツールバーには、よく使用する設定オプションと、凡例やオンライン ヘルプなどの情報ウィンドウ用のアイコンやボタンが表示されます。表 2-1 は、ツールバー オプションのリストを、ツールバーの左から右の順に示しています。

表 2-1　ツールバーのアイコンとボタン

ツールバーのオプション	アイコン	タスク
接続		Configuration Assistant をスタンドアロン デバイスまたはコミュニティに接続します。
更新		ビューを最新のステータスに更新します。
印刷		Configuration Assistant ウィンドウまたはヘルプ トピックを印刷します。
環境設定		Configuration Assistant の表示プロパティの設定、Configuration Assistant の接続時に表示するビューの選択、および Configuration Assistant による更新の検索頻度の選択を行います。
設定の保存[1]		管理デバイスの実行コンフィギュレーションを起動設定に保存します。
音声		音声による通信のオプションを設定します。
VPN サーバ		VPN サーバを設定し、デバイスにセキュリティ ポリシーを送信します。
ファイアウォールと DMZ		ファイアウォールを設定し、DMZ を作成します。
無線ネットワーク		WLAN コントローラおよびそれに関連付けられたアクセスポイント上のセキュリティ機能を設定します。
スマートポート[1]		ネットワーク ポート接続の重要なセキュリティ、可用性、および管理性に関する機能をすばやく設定します。
ポート設定[2]		デバイスのポート パラメータを表示および設定します。
インベントリ		デバイス タイプ、ソフトウェア バージョン、IP アドレス、およびコミュニティ内のすべてのアクティブなデバイスに関するその他の情報を表示します。
状態		管理デバイスの状態を示す測定値を監視します（WLAN コントローラ、および Aironet 自律型アクセスポイントを除く）。
イベント通知		ネットワークおよびデバイスのイベントに関するメッセージを表示します。

表 2-1　ツールバーのアイコンとボタン （続き）

ツールバーのオプション	アイコン	タスク
前面パネル		前面パネル ビューを表示します。
トポロジ		トポロジ ビューを表示します。
凡例		アイコン、レベル、リンクを説明する凡例を表示します。
アクティブ ウィンドウのヘルプ		アクティブで開いているウィンドウに関するヘルプ トピックを表示します。アクティブなウィンドウで、[ヘルプ（Help）] をクリックするか、F1 キーを押すことによっても、ヘルプを表示できます。
フィードバック		Configuration Assistant のユーザの操作性に関するフィードバックを記入することのできる Web ページを開きます。
検索		ツールバーの右側のフィールドに用語を入力し、[検索（Search）] ボタンをクリックすると、その用語をオンライン ヘルプ内で検索できます。

1. 読み取り専用モードでは使用できません。読み取り専用アクセス モードと読み書きアクセス モードの詳細については、「環境設定の設定」（P.2-9）を参照してください。
2. このメニュー オプションの一部のオプションは、読み取り専用モードでは使用できません。

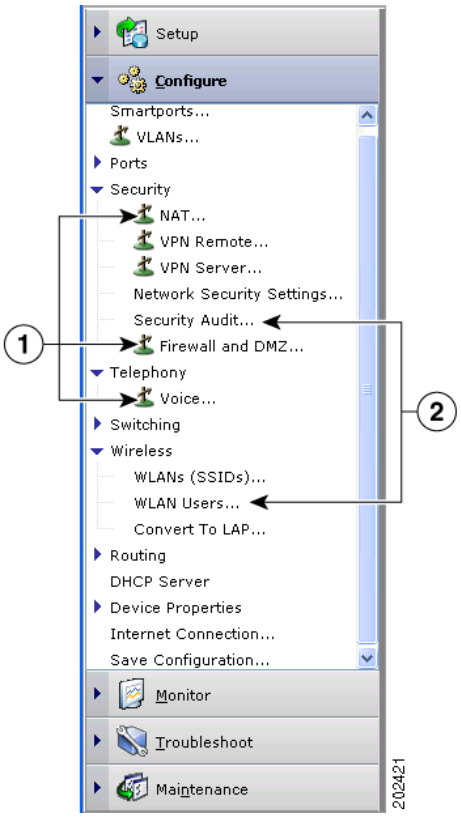
対話モード

Configuration Assistant GUI との対話に使用するモードには、ガイド モードとエキスパート モードの 2 つがあります。ガイド モードでは、ヘルプ情報とともに機能オプションが一度に 1 つの手順ずつ表示されます。エキスパート モードでは、機能を設定するためのオプションがすべて 1 つのウィンドウに表示されます。ヘルプを表示するには、ウィンドウ内で [ヘルプ（Help）] をクリックします。

ガイド モード

Configuration Assistant は、デフォルトではエキスパート モードです。[アプリケーション（Application）] メニューで [ガイド（Guide）] を選択し、道しるべのアイコン（図 2-5 を参照）が付いた機能を選択すると、設定手順が順番に表示されます。これをガイド モードと呼びます。このアイコンが付いていない機能を選択すると、設定ウィンドウがエキスパート モードで表示されます。

図 2-5　ガイド モードとエキスパート モードの例



1	ガイド モードとエキスパート モードで使用できる機能の例	2	エキスパート モードのみを使用できる機能の例

ガイド モードは、スイッチのアクセス レベルが読み取り専用の場合は使用できません。読み取り専用アクセス モードの詳細については、「環境設定の設定」（P.2-9）を参照してください。

エキスパート モード

すべての機能に対して設定ウィンドウを表示したい場合は、[アプリケーション（Application）] メニューで [エキスパート（Expert）] を選択します。機能バーに道しるべのアイコン付きで表示されている機能であっても、エキスパート モードで表示されます。再びガイド モードに変更するには、[アプリケーション（Application）] メニューで [ガイド（Guide）] を選択します。

エキスパート モードでガイド モードの機能を起動するには、[エキスパート（Expert）] を選択してから、機能を選択します。

スマートポート

Configuration Assistant は、スマートポートを使用してデバイス接続の設定をしていないことを検出すると、[イベント通知（Event Notification）] ウィンドウ内でその情報を表示します。デバイス接続は、手動でも、Configuration Assistant による推奨に基づいても設定できます。[スマートポート（Smartports）] ウィンドウを開いて、適用するロールを選択するか、またはスマートポートを使用して推奨されるロールを適用します。スマートポートの詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。

環境設定の設定

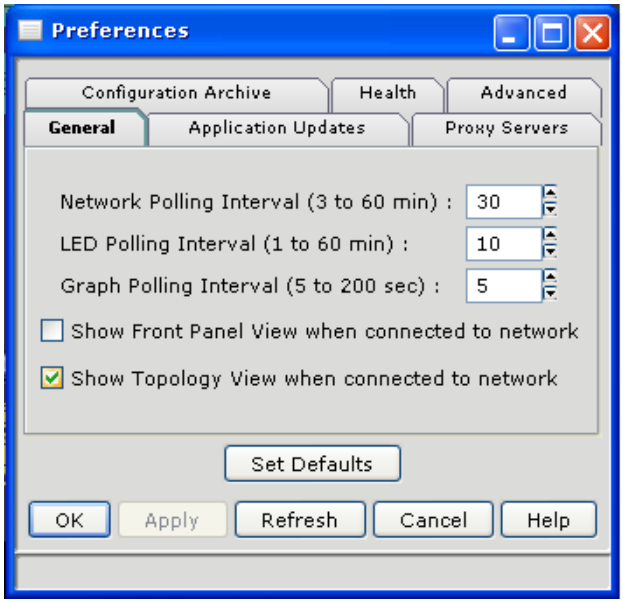
CCA で実行される多くの機能はカスタマイズ可能です。たとえば次の設定を実行できます。

- CCA をトポロジ ビューか前面パネル ビュー、またはその両方で表示する。
- CCA が管理対象のデバイスをポーリングする周期を設定する。
- Cisco.com で CCA の更新を検索する頻度を設定する。
- Cisco.com から CCA の更新をダウンロードするため、またはネットワークと通信を行うために、プロキシ サーバを使用するかどうかを決定する。
- 保存した設定の CCA によるアーカイブ先を指定する。
- スタンドアロン デバイスまたはコミュニティの状態を監視するため、ポーリング間隔を設定する。

CCA の環境設定を設定するには、[環境設定（Preferences）] ウィンドウを使用します。

[環境設定（Preferences）] ウィンドウを開くには、次のいずれかを実行します。

- メニューバーで [システム（System）] > [環境設定（Preferences）] を選択する。
- ツールバーで [環境設定（Preferences）] アイコン をクリックする。



[環境設定（Preferences）] ウィンドウには、次のタブが用意されています。

- 全般：ポーリングおよび起動時の環境設定を選択します。
- アプリケーション更新：新たな更新を検索する頻度を Configuration Assistant に対して指示します。
- プロキシサーバ：プロキシサーバを介して Cisco.com やネットワークと通信します。
- 設定の保存：デバイスに保存した設定をバックアップするための環境設定を行います。
- 状態：スタンドアロン デバイスまたはコミュニティの状態を監視するために使用するカテゴリを選択します。
- 詳細：起動時のサウンドをイネーブルまたはディセーブルにするか、Cisco IOS 音声コマンドの CLI ポストビューをトラブルシューティングに備えてイネーブルにします。CLI ポストビューをイネーブルにすると、音声設定が更新されるたびにポップアップ ダイアログが開き、UC500 に送信された Cisco IOS 音声コマンドが表示されます。

（注）　Configuration Assistant を終了すると、環境設定は PC の user_preferences という名前のファイルに保存されます。これは、C¥Documents and Settings¥*username*¥.configuration assistant というパスに保存されます。このファイルを別の PC にコピーすることもできます。

各タブの全設定の詳細については、CCA オンライン ヘルプの [環境設定（Preferences）] ウィンドウに関するトピックを参照してください。

アプリケーション更新

Configuration Assistant では、CCA アプリケーションの新たなバージョンがあるかどうかを Cisco.com で検索できます。検索を行うには、次のいずれかの操作を実行します。

- [システム（System）] > [環境設定（Preferences）] を選択し、[環境設定（Preferences）] ウィンドウの [アプリケーション更新（Application Updates）] タブを使用して、毎週または毎月、自動で検索を実行することを要求する。
- [システム（System）] > [アプリケーション更新（Application Updates）] を選択し、更新の検索を即座に要求する。

オンライン ヘルプ

Configuration Assistant には、セットアップ、設定、監視、メンテナンスのタスクについて説明する包括的なオンライン ヘルプが用意されています。

ヘルプ トピックの情報は、デバイスによって異なる場合があります。このような場合、[ヘルプ（Help）] ウィンドウの右側のペインにトピックのすべてのバージョンが表示され、適用されるデバイスのホスト名がそれぞれにラベル付けされています。

オンライン ヘルプには次の機能が含まれます。

- ネットワーキング機能の背景的情報を提供する概念のヘルプ
- タスクの実行手順を説明するウィンドウ ヘルプ
- オンライン ヘルプの件名の索引
- オンライン ヘルプで入力した件名を検索するタブ
- オンライン ヘルプで使用されている用語の用語集

CHAPTER 3

インストール、接続、およびセットアップ

この章では、Configuration Assistant のインストールの要件、インストール方法、デバイスまたは既存のコミュニティへの接続方法、およびデバイス管理のためのセットアップ方法について説明します。取り上げるトピックは次のとおりです。

- 「インストールの要件」（P.3-1）
- 「Configuration Assistant のインストール」（P.3-2）
- 「Configuration Assistant の接続」（P.3-2）
- 「UC500 のシステム ロケールの変更」（P.3-3）
- 「デバイスのセットアップ」（P.3-5）
- 「イベント通知」（P.3-5）
- 「設定の保存」（P.3-5）

インストールの要件

Configuration Assistant をインストールする PC は、次の最小要件を満たしている必要があります。

- プロセッサ速度：1 GHz
- DRAM：最小 512 MB、良好なパフォーマンスを得るには 1,024 MB を推奨
- ハードディスクの空き容量：アプリケーション自体に必要な容量は 150 MB、300 MB を推奨
- 色数：65,536
- 解像度：1,024 × 768
- フォント サイズ：小

Configuration Assistant は、次のオペレーティング システムでサポートされます。

- Windows Vista Ultimate
- Windows XP Service Pack 1 以降

64 ビット版 Windows ではテストされておらず、正式にはサポートされていません。Configuration Assistant で必要なログ ファイルやプリファレンス ファイルを作成できるように、ユーザのホーム ディレクトリや Configuration Assistant インストール ディレクトリへの書き込み権限が必要になります。

Configuration Assistant のインストール

Configuration Assistant を PC にインストールするには、次の手順に従います。

ステップ 1　Web アドレス http://www.cisco.com/go/configassist にアクセスします。

Cisco.com の登録ユーザである必要がありますが、その他のアクセス権は必要ありません。

ステップ 2　Configuration Assistant インストーラ ファイル（たとえば Cisco-config-assistant-win-k9-1_9-en.exe）を見つけます。

ステップ 3　Configuration Assistant インストーラをダウンロードして実行します。使用中のブラウザで可能ならば、Web から直接インストーラを実行できます。

Configuration Assistant は無料です。ダウンロード、インストール、使用のいずれにも料金はかかりません。

インストーラを実行するときは、表示される指示に従います。最後の画面で、[終了（Finish）] をクリックして、Configuration Assistant のインストールを完了します。

古いバージョンの Cisco Conversation Assistant を使用している場合は、アプリケーション更新機能を使用して最新のバージョンにアップグレードします。「アプリケーション更新」（P.2-10）を参照してください。

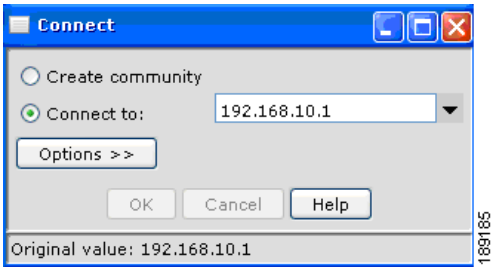
Configuration Assistant をインストールすると、デスクトップに Configuration Assistant のアイコン、[スタート（Start）] メニューに Configuration Assistant のショートカット、および [スタート（Start）] > [プログラム（Programs）] の下に Configuration Assistant のエントリがそれぞれ作成されます。これらのいずれかをクリックすると、Configuration Assistant の GUI の一部分と [接続（Connect）] ウィンドウが表示されます。

非接続モードでは、Configuration Assistant はデバイスまたはコミュニティに接続されず、スタンドアロン デバイスまたはコミュニティを管理できません。メニューバーおよびツールバーでサポートされるのは、Configuration Assistant 自体をカスタマイズするタスクだけです。通常はデバイスの機能が表示される機能バーには、何も表示されません。

Configuration Assistant の接続

Configuration Assistant をスタンドアロン デバイス、既存のコミュニティ、または新規のコミュニティに接続できます。これらの接続すべてに対して、図 3-1 に示す [接続（Connect）] ウィンドウを使用します。[接続先（Connect To）] ボタンとそのドロップダウン メニューは、デバイスおよび既存のコミュニティへの接続に使用します。コミュニティの作成方法の詳細については、「コミュニティの作成」（P.4-3）を参照してください。

図 3-1　[接続（Connect）] ウィンドウ



接続が確立されると、Configuration Assistant のウィンドウは接続モードになります。ツールバーには、デバイスの機能を示すアイコンが追加されます。同様に機能バーには、Configuration Assistant が提供するイーサネット機能のメニューが表示されます。

UC500 のシステム ロケールの変更

UC500 の場合、出荷時のデフォルト ローカリゼーションは英語（米国）です。

Internetwork Operating System（IOS）および Cisco Unity Express（CUE）ファームウェアをアップグレードして、ロケールをデフォルトの英語（米国）から別のロケールに変更するには、次の手順に従います。

ステップ 1　必要に応じて 「UC500 ソフトウェア パッケージのアップグレード」（P.6-4）の説明に従い、最新のソフトウェア パッケージにアップグレードします。

選択したソフトウェアを UC500 がすでに実行している場合は、必要に応じてインストールまたはスキップを選択します。

ステップ 2　必要なローカリゼーション ファイルをダウンロードします。

a. Web ブラウザを開き、次の URL にアクセスします。

http://www.cisco.com/go/uc500swpk

b. CCO アカウント ユーザ名とパスワードを使用してログインします。

c. スクロール ダウンして [Accept] をクリックし、ライセンス契約を承認します。

UC500 の Cisco Systems File Exchange ページが表示されます。これには、UC500 Software Pack、UC500 CUE Localization、および UC500 IP Phone Localization のフォーラムが含まれています。

d. 次のファイルをダウンロードします。

- 必要なロケールの UC500 CUE Localization ファイル。たとえば、イタリア語のデータおよびプロンプト ファイルの場合は cue-vm-it_IT-langpack.ise.3.2.1.prt1 です。
- 必要なロケールの UC500 IP Phone Localization .tar ファイル。たとえば、イタリア語のロケールの場合は CME-locale-it_IT-4.1.0.2.tar です。

ステップ 3　CUE を新しい言語で再インストールします。

a. UC500 ファームウェア バンドル（UC520-<*x.x.x*>.zip）から、CUE ファームウェア バンドル（SCUE-UC520-<**x.x.x**>.zip）を開きます。

b. すべての CUE ファームウェア ファイルを次のディレクトリに展開します。CCA は C ドライブのデフォルトの位置にインストールされているものとします。

C:¥program files¥Cisco Systems¥CiscoSMB¥Cisco Configuration Assistant¥appdata¥phoneloads

c. ステップ 2 でダウンロードした必要なロケールの CUE Localization ファイルを、CCA をインストールしたディレクトリの下にコピーします。

たとえば CCA をデフォルトの位置にインストールした場合は、ファイルを次の位置にコピーします。

C:¥Program Files¥Cisco Systems¥CiscoSMB¥Cisco Configuration Assistant¥appdata¥phoneloads

（注） Cisco Configuration Assistant を実行している PC にインストールされているすべてのファイアウォール ソフトウェアで、UC500 からの Trivial File Transfer Protocol（TFTP）および FTP アクセスを許可するように設定します。ファイアウォール ソフトウェアの設定方法がわからない場合は、アップグレードしている間だけディセーブルにします。

アップグレードの前に、ローカル マシンで実行されているサードパーティ製のすべての TFTP または FTP サーバをシャットダウンしてください。

d. CCA を起動して UC500 に接続します。

e. 機能バーから [メンテナンス（Maintenance）] > [ソフトウェア アップグレード（Software Upgrade）] を選択します。

f. リストから [UC500] を選択して [アップグレード設定（Upgrade Settings）] をクリックします。

g. [CUE のみ（CUE Only）] オプション ボタンをオンにして、CUE だけをアップグレードするようにします。

h. [参照（Browse）] をクリックして、現在 CUE ファームウェアがある電話ロード ディレクトリに移動します。

i. cm-vm.ise.<*version*>.pkg ファイルを選択します。別のパッケージを選択すると、プロセスは失敗します。

j. [アップグレード設定（Upgrade Settings）] ウィンドウの [言語（Language）] ドロップダウン メニューから新たな言語を選択します。

k. [アップグレード（Upgrade）] をクリックします。

このプロセスは完了までに 30 分ほどかかる場合がありますが、入力はこれ以上要求されません。

ステップ 4　ローカライズされた電話ロードをインストールし、Cisco Configuration Assistant を使用して設定を完了します。

a. ステップ 2 でダウンロードした UC500 CME Localization バンドル（CME-locale-<*locale*>-<*version*>.tar）を次の位置にコピーします（CCA は C ドライブのデフォルトの位置にインストールされているものとします）。

C:¥program files¥Cisco Systems¥CiscoSMB¥Cisco Configuration Assistant¥appdata¥phoneloads

b. CCA を起動して UC500 に接続します。

c. 機能バーから [設定（Configure）] > [テレフォニー（Telephony）] > [音声（Voice）] を選択します。

d. [地域（Region）] タブを選択します。

e. [地域（Region）] タブで、新たなロケール用に次の設定を行います。

- 地域
- コールプログレストーン
- 電話の言語

- ボイスメールの言語

  ユーザがステップ 3 を完了した場合、ローカライズされたボイスメール言語がすでに選択されています。ボイスメール言語は、ユーザの必要に応じてこのメニューから再度変更できます。
- 日付書式
- 時間制

f. [OK] をクリックします。

電話とボイスメール言語のローカライズには 30 分ほどかかる場合があります。

デバイスのセットアップ

新しいデバイスや、工場出荷時のデフォルト設定にリセットされたデバイスは、セットアップする必要があります。この作業には、デバイスの設定ウィザードを使用します。これにより、Configuration Assistant で管理するためにデバイスを準備できます。ウィザードを起動するには、機能バーの [セットアップ（Setup）] を選択して、[デバイスの設定ウィザード（Device Setup Wizard）] をクリックします。

イベント通知

Configuration Assistant は、ステータス バーとトポロジ ビューのデバイスの下にイベント アイコンを表示することにより、検出したイベントをユーザに通知します。イベント アイコンをクリックすると [イベント通知（Event Notification）] ウィンドウが表示されます。イベントの説明が表示され、可能な場合には必要な処置を施すためのウィンドウに移動できるようになります。

未接続モードでイベントの通知があった場合は、機能バーの [モニタ（Monitor）] を選択して [イベント通知（Event Notification）] をクリックすることで、[イベント通知（Event Notification）] ウィンドウを開くことができます。

設定の保存

変更を永久に保存して Cisco UC500 および Cisco SR500 のフラッシュ メモリに書き込むには、CCA を閉じる前に設定を保存する必要があります。これにより、システムの停止または再起動時に変更が失われることを防ぎます。

変更を永久に保存して UC500 のフラッシュ メモリに書き込むには、次の操作を実行します。

- CCA ツールバーから、[設定の保存（Save Configuration）] アイコン をクリックします。

  または
- CCA 機能バーから [設定（Configure）] > [設定の保存（Save Configuration）] > [保存（Save）] をクリックします。

CHAPTER 4

コミュニティの計画と作成

この章では、Configuration Assistant を使用してコミュニティを計画および作成する概念と手順について説明します。Configuration Assistant を使用してコミュニティを設定する方法の詳細については、オンライン ヘルプを参照してください。

コミュニティの計画

このセクションでは、コミュニティを作成するにあたって理解しておく必要のあるガイドライン、要件、および注意事項について説明します。

メンバおよび候補の特性

メンバとは、コミュニティに属するネットワーク デバイスを指します。*候補*は、コミュニティに属さないネットワーク デバイスです。

コミュニティに加入するには、候補が次の条件を満たす必要があります。

- Configuration Assistant でサポートされている。
- Cisco Configuration Assistant から到達可能な IP アドレスが設定されている。
- デフォルト ポートで HTTP または HTTPS に対応している。

  デバイスがファイアウォールの内側にある場合、これらのポートにアクセスできなければなりません。

コミュニティ デバイスの制限

次のデバイス タイプを組み合わせた数が 25 を超えることはできません。

- Catalyst Express スイッチ
- Cisco 800 シリーズ ルータ
- Cisco 870 シリーズ ルータ
- UC500 シリーズ プラットフォーム
- SR520 シリーズ ルータ
- Cisco 526 Wireless Express コントローラ
- Cisco 521 Wireless Express 自律型アクセスポイント。これは、動作する際に Cisco 526 モビリティ コントローラを必要としない、完全な機能が搭載されたスタンドアロンのアクセスポイントです。

1 つのコミュニティで管理可能な IP フォンやライトウェイト アクセスポイント（WLAN コントローラによって管理されるアクセスポイント）の数には制限はありません。また、Configuration Assistant で管理可能なコミュニティの数にも制限はありません。

全体のデバイス数 25 台の制限に加えて、次のデバイス タイプごとの制限があります。

- Catalyst Express スイッチ：15 台以下
- Cisco 800 シリーズ ルータと UC500 シリーズ プラットフォーム：5 台以下
- Cisco 526 Wireless Express コントローラ：2 台以下
- Cisco 521 自律型アクセスポイントと HWIC アクセスポイント：3 台以下
- Cisco SPA525G：お客様のサイトで導入されるリファレンス デザインに応じて、16 台以下の無線 G モードで作動する Cisco SPA525G 電話 詳細については、『*Cisco SPA525G Wireless Deployment Guide for Cisco SBCS*』を参照してください。

全体の制限またはデバイス タイプの制限を超えると、コミュニティを管理できません。制限を超過しないよう、デバイスを削除する必要があります。

候補とメンバの自動検出

Configuration Assistant は、まず最初に開始デバイスの IP アドレスと HTTPS/HTTP ポート番号、続いてCDP 開始デバイスの 4 CDP ホップ以内に存在するコミュニティ候補のリストを作成します。Configuration Assistant は、デバイスに有効な IP アドレスがある限り、複数のネットワークおよび VLAN の中から、候補デバイスとメンバ デバイスを検出できます。検出対象となるためにネットワーク デバイスが満たす必要のある要件のリストについては、「メンバおよび候補の特性」（P.4-1）を参照してください。

（注） 候補、メンバ、および Configuration Assistant が検出対象とするすべてのネットワーク デバイスにおいて、CDP をディセーブルにしないでください。

検出されたデバイスのリストを必要に応じて編集し、デバイスをコミュニティに追加できます。Configuration Assistant がネットワーク デバイスを検出しなかった場合、ユーザは手動でデバイスを追加できます。

検出されたデバイスをコミュニティに追加する方法、またはデバイスをコミュニティに手動で追加する方法の詳細については、「一度に 1 つのデバイスの追加」（P.4-4）を参照してください。

コミュニティ名

コミュニティを作成したら、名前を割り当てる必要があります。名前には、最大 64 文字の英数字を使用できます。大文字と小文字は区別されません。

ホスト名

コミュニティ メンバに対してユーザがホスト名を割り当てる必要はありません。また、Configuration Assistant によりデフォルトで名前が割り当てられることもありません。ただし、Cisco IOS は、ホスト名のないスイッチに「*Switch*」というホスト名を割り当てます。したがって、混乱を避けるため、スイッチにホスト名を割り当てることが望ましい場合もあります。

パスワード

コミュニティに接続すると、Configuration Assistant は、そのコミュニティのメンバにすでに割り当てられている一意のパスワードを入力するようにプロンプトを表示します。Configuration Assistant は、これらのパスワードを使用して他のデバイスへの接続を試行します。パスワードの入力を求められるのは、前回入力したパスワードがデバイスで使用できない場合だけです。

たとえば、コミュニティに 10 のメンバがあり、そのうち 5 つのメンバが 1 つのパスワードを共有していて、残りの 5 つのメンバで別のパスワードを共有しているとします。この場合、それぞれを 1 回ずつ、合計 2 回パスワードを入力するように求められます。Configuration Assistant では、パスワードは PC に保存されません。そのため、コミュニティへの接続を試行するたびに、パスワードの入力が求められます。

通信プロトコル

Configuration Assistant では、デバイスとの通信に HTTPS、HTTP、および Telnet を使用します。隣接デバイスが検出された場合、およびデバイスが手動でコミュニティに追加された場合、HTTPS の使用が試行されます。HTTPS が失敗した場合、HTTP が試行されます。

HTTPS ポートは 443 に固定されており、HTTP ポートはデフォルトで 80 に設定されています。コミュニティを作成する際には、別の HTTP ポートを指定できます。その後は、HTTP ウィンドウを使用して HTTP ポートを変更できます。HTTPS と HTTP のポート設定はいずれも、同一コミュニティのメンバすべてに対して同じである必要があります。

コミュニティの情報

Configuration Assistant では、IP アドレス、ホスト名、通信プロトコルなど、個々のデバイスの情報がすべてローカル PC に保存されます。コミュニティへの接続時には、ローカルに保存されたデータによって、メンバ デバイスの再検出が行われます。

別の PC を使用して既存のコミュニティを管理しようとしても、メンバ デバイスの情報はいずれも使用できません。そのコミュニティを再び作成し、同じメンバ デバイスを追加する必要があります。

コミュニティの作成

次の方法でコミュニティを作成できます。

- コミュニティにデバイスのグループを追加する。
- 一度に 1 つのデバイスを追加する。

デバイスがコミュニティに適切に含まれていることを確認する必要があります。このセクションでは、これらのタスクを実行する方法を説明します。

デバイスのグループの追加

候補デバイスのリストを作成し、それらのデバイスをコミュニティに追加するには、次の手順に従います。

1. Configuration Assistant を起動し、[接続（Connect）] ウィンドウで [コミュニティの作成（Create community）] を選択します。[接続（Connect）] をクリックします。
2. [コミュニティの作成（Create Community）] ウィンドウで、コミュニティの名前を入力します。
3. HTTP ポートをデフォルトの 80 以外に設定するには、[詳細（Advanced）] ボタンをクリックします。使用する HTTP ポート番号を入力します。[OK] をクリックします。
4. 起点 デバイスの IP アドレス、アドレス範囲の開始 IP アドレスと終了 IP アドレス、またはサブネットの IP アドレスを入力します（起点 IP アドレスを使用した場合、そのアドレスを持つデバイスの検出と、接続されたデバイスの検出を暗黙的に実行します）。
5. 検出プロセスを開始します。
6. デバイス リストで、削除する候補デバイスの選択を解除し、[削除（Remove）] をクリックします。

一度に 1 つのデバイスの追加

一度に 1 つのデバイスを追加するには、次のいずれかの方法を使用します。

- [コミュニティの作成（Create Community）] ウィンドウで、単一のデバイスの IP アドレスを入力し、検出プロセスを開始します。
- トポロジ ビューで、候補アイコンを右クリックし、[コミュニティに追加（Add to Community）] を選択します。

コミュニティの確認

コミュニティを確認するには、次の手順に従います。

1. [モニタ（Monitor）] > [ビュー（View）] > [トポロジ（Topology）] を選択し、トポロジ ビューを表示します。
2. [モニタ（Monitor）] > [レポート（Reports）] > [インベントリ（Inventory）] を選択し、トポロジ ビューを表示します。

   デバイスの型番、シリアル番号、ソフトウェア バージョン、IP 情報、位置といった情報が要約されています。
3. [モニタ（Monitor）] > [ビュー（View）] > [前面パネル（Front Panel）] を選択し、前面パネル ビューを表示します。

CHAPTER 5

UC500 および SR500 セキュア ルータのセットアップ

Cisco SR500 は、Cisco Smart Business Communications System (SBCS) ネットワーク用の Asymmetric Digital Subscriber Line（ADSL; 非対称デジタル加入者線）または FastEthernet WAN の終端機能および拡張セキュリティ機能を提供します。このマニュアルでは、Cisco UC500 を Cisco SR500 の後ろにセキュア ルータ モードで接続する方法について説明します。構成は次のとおりです。

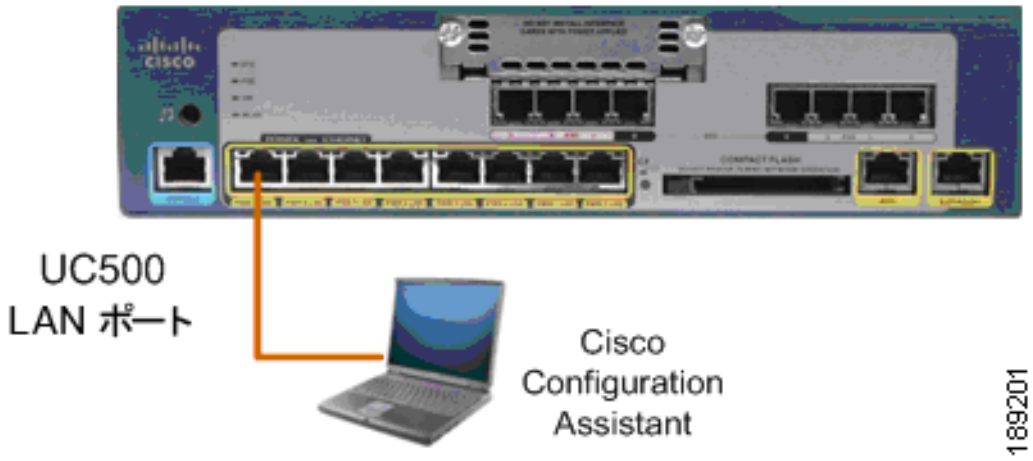
- Cisco UC500 の設定
- Cisco SR500 の設定
- コミュニティの作成

前提条件：

- UC500 シリーズ ルータ
- SR500 シリーズ ルータ
- Cisco Configuration Assistant（CCA）をサポートするオペレーティング システム（Windows Vista Ultimate または Windows XP Service Pack 1 以降）がインストールされている PC
- Cisco Configuration Assistant バージョン 1.8 以降がインストール済みであること

Cisco UC500 を Windows PC に接続します（図 5-1 を参照）。

図 5-1　　Cisco UC500 の接続



Cisco UC500 の設定

Network Address Translation（NAT; ネットワーク アドレス変換）は、この設定の UC500 では必要ではありません。これは、ネットワークの NAT が SR500 によって管理されるためです。CCA を使用して Cisco UC500 を設定するには、次の手順に従います。

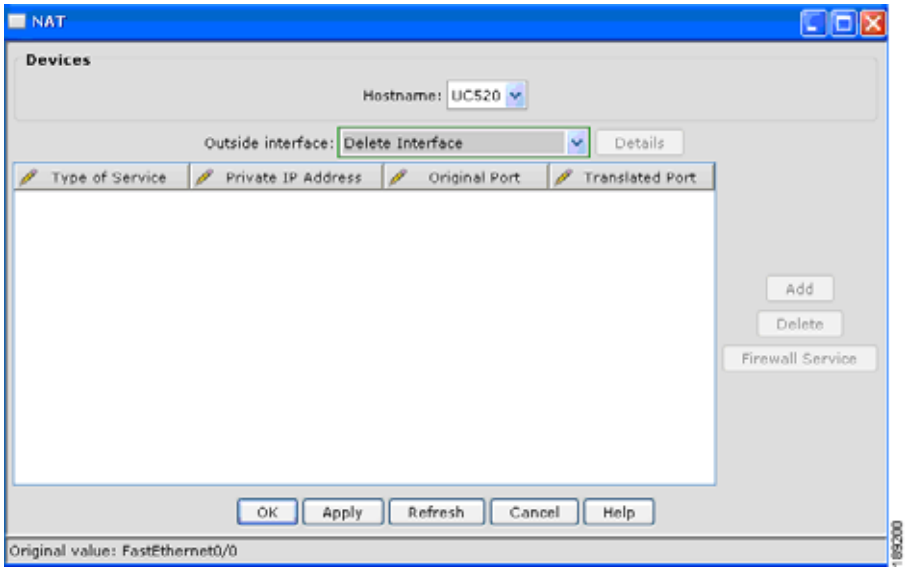
ステップ 1　Cisco UC500LAN IP アドレスを、[接続（Connect）] ウィンドウの [接続先（Connect to）] フィールドに入力します。

ステップ 2　Cisco UC500 管理者のユーザ名およびパスワードを入力します。

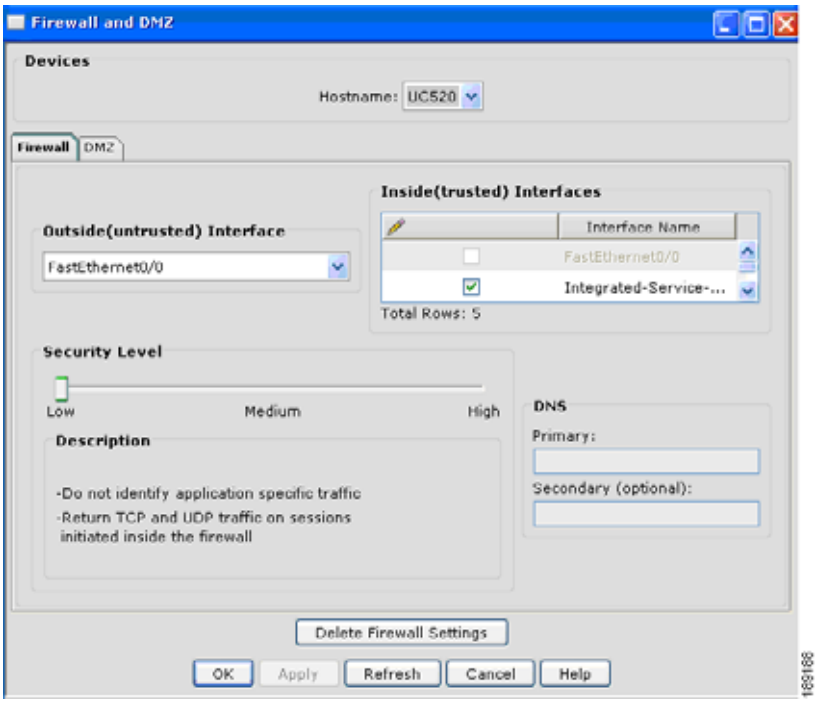
ステップ 3　[設定（Configure）] > [セキュリティ（Security）] > [NAT] に移動します。

ステップ 4　[NAT] ウィンドウの [外部インターフェイス（Outside Interface）] メニューから [インターフェイスの削除（Delete Interface）] を選択します。

ステップ 5　[適用（Apply）] をクリックして UC500 の NAT をディセーブルにします（着信および発信インターネット トラフィックの NAT は Cisco SR500 によって行われるため、Cisco UC500 で NAT をイネーブルにする必要はありません）。



ステップ 6　[設定（Configure）] > [セキュリティ（Security）] > [ファイアウォールと DMZ（Firewall and DMZ）] に移動します。



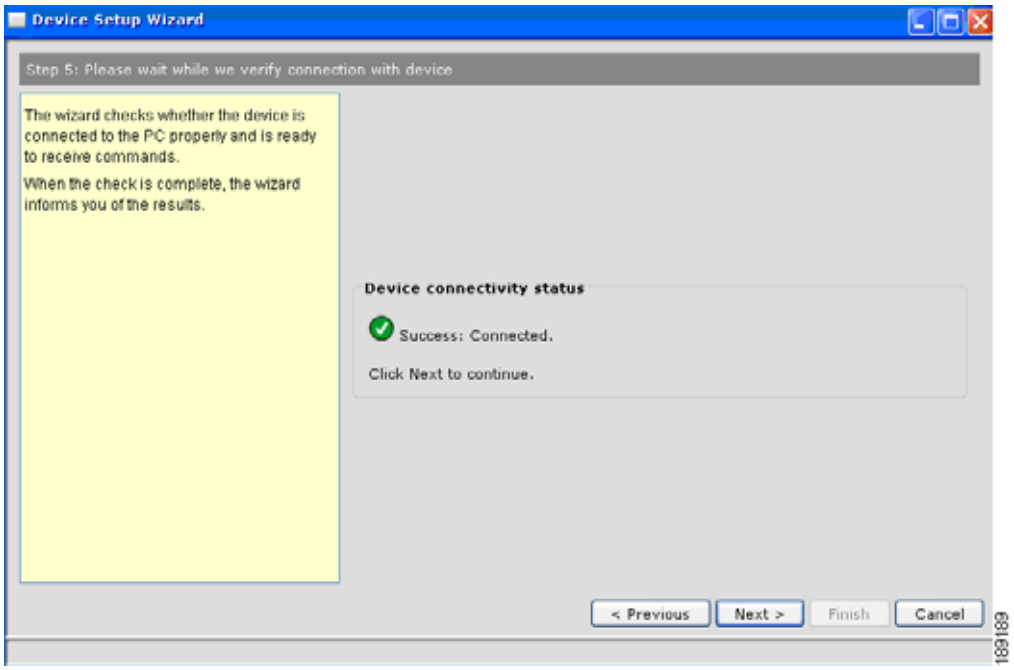
ステップ 7　[ファイアウォール設定の削除（Delete Firewall Settings）] をクリックします。

ステップ 8　[はい（Yes）] をクリックして、警告メッセージをクリアします。これにより、Cisco UC500 からファイアウォールの設定が削除されます。Cisco UC500 ではファイアウォールは必要ありません。これは、Cisco SR500 によってネットワークのファイアウォールが提供されるためです。

ステップ 9　[セットアップ（Setup）] > [デバイスの設定ウィザード（Device Setup Wizard）] に移動します。

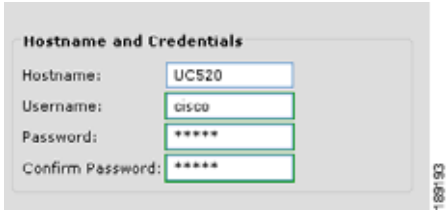
ステップ 10　メニューから [UC500] を選択して、[次（Next）] をクリックします。

ステップ 11　デバイスの接続が確認できるまで [次（Next）] をクリックします。デバイスの接続が確認できるまで 2 ～ 3 分かかる可能性があります。



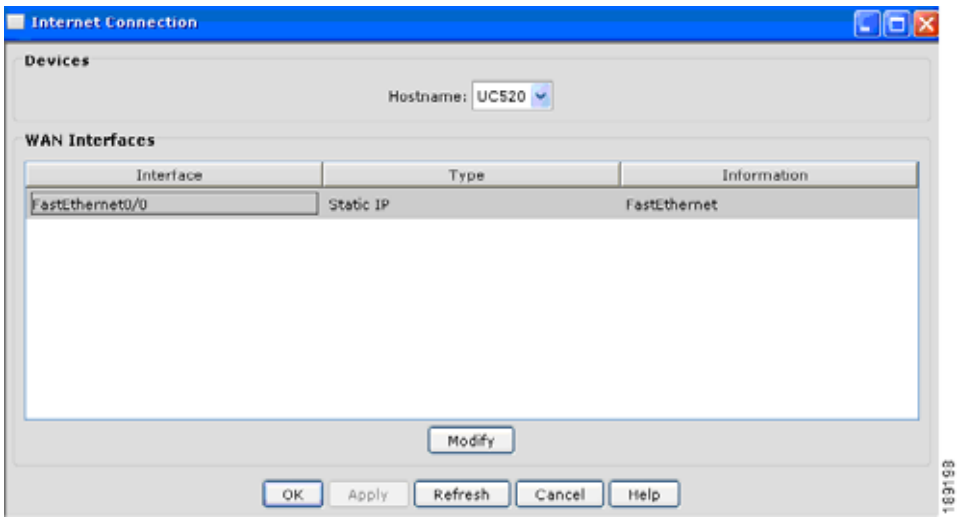
ステップ 12　[次（Next）] をクリックします。

ステップ 13　UC500 管理者のユーザ名およびパスワードを入力します。デフォルのユーザ名は **cisco** です。デフォルトのパスワードは **cisco** です。

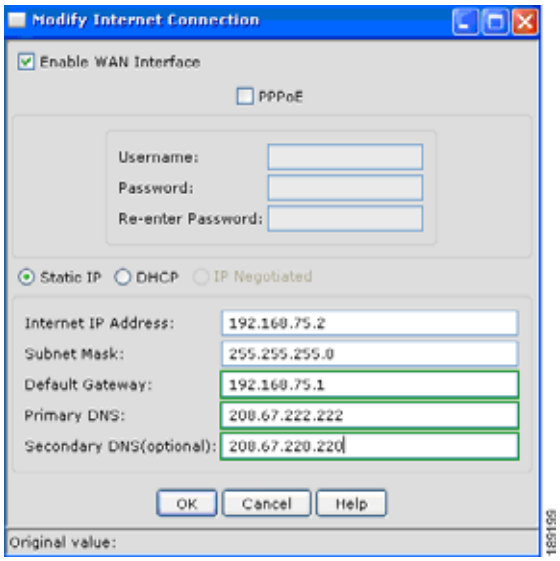


ステップ 14　[次（Next）] をクリックします。

ステップ 15　[PC との同期（Synchronize with PC）] チェックボックスがオンになっていることを確認します。これにより、UC500 の日時設定が PC と同期されます。[次（Next）] をクリックします。



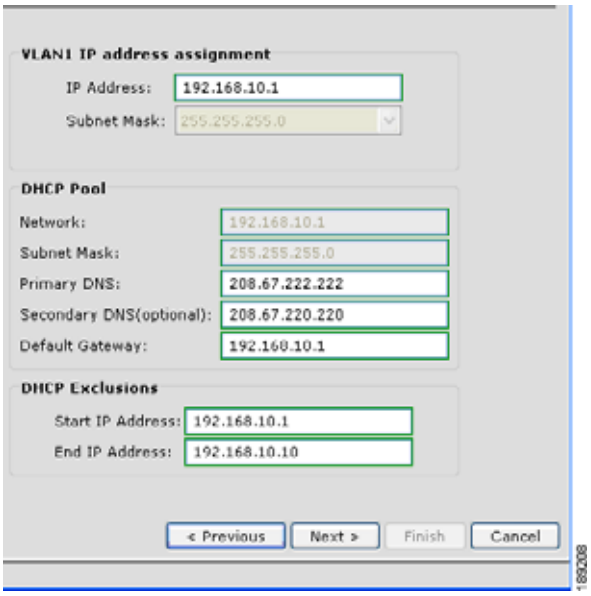
ステップ 16　[Fastethernet0/0] を選択して、[変更（Modify）] をクリックします。



ステップ 17　[インターネット IP アドレス（Internet IP Address）] フィールドに **192.168.75.2** と入力します。

ステップ 18　[静的 IP（Static IP）] を選択します。

ステップ 19　ネットワークで使用されている DNS サーバ IP アドレスと一致する IP アドレスを [プライマリ DNS（Primary DNS）] と [セカンダリ DNS（Secondary DNS）] に入力して、[OK] をクリックします。



ステップ 20　[次（Next）] をクリックします。

ステップ 21　[電話の言語（Phone Language）] メニューから言語を選択し、ボイスメールの言語も選択します。

ステップ 22　[ボイスメールの言語（Voicemail Language）] メニューから言語を選択します。

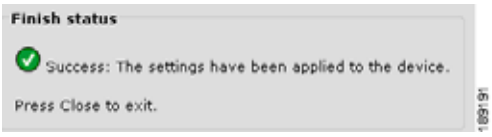
ステップ 23　[次（Next）] をクリックします。

ステップ 24　設定を確認します。変更を加えたい場合は [前（Previous）] をクリックします。それ以外の場合は [終了（Finish）] をクリックします。

ステップ 25　警告が表示されたら [はい（Yes）] をクリックします。

（注）　VLAN 1 の IP アドレス 192.168.10.1 を保持した場合、Cisco Configuration Assistant は Cisco UC500 への接続を切断せず、Cisco UC500 に設定を適用します。このプロセスには 8 ～ 10 分かかる場合があります。

プロセスが完了すると、次のメッセージが表示されます。



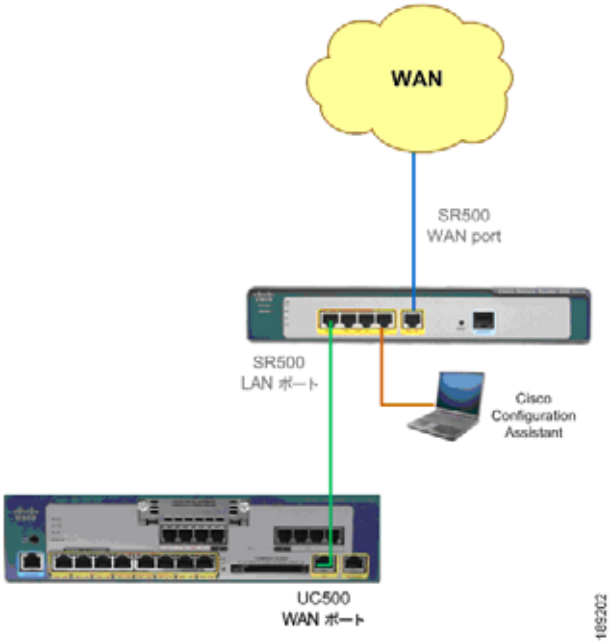
ステップ 26　[閉じる（Close）] をクリックして、設定ウィザードを終了します。

ステップ 27　[設定（Configure）] > [設定の保存（Save Configuration）] に移動して、[保存（Save）] をクリックします。

Cisco SR500 の設定

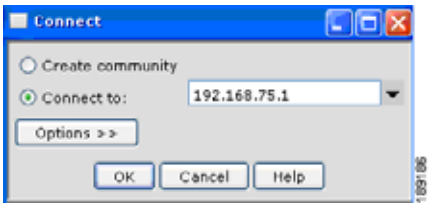
Cisco UC500、Cisco SR500、および Windows PC を接続します（図 5-2 を参照）。

図 5-2　　Cisco UC500、Cisco SR500、および Windows PC の接続



インターネットまたは WAN の接続は、Cisco SR500 のシャーシ タイプによって、ADSL 接続またはイーサネット接続になる可能性があります。

ステップ 1　SR500 の LAN IP アドレスを、Cisco Configuration Assistant の [接続先（Connect to）] フィールドに入力します。



接続が拒否された場合は、手動で DHCP リースを解放して再開し、Cisco SR500 から IP アドレスを取得しなければならないことがあります。これには、次の手順に従います。

1. [ファイル名を指定して実行（Run）] ウィンドウを開くために、[スタート（Start）] > [ファイル名を指定して実行（Run）] を選択します。
2. [名前（Open）] フィールドに **CMD** と入力して、Windows コマンド ウィンドウを立ち上げます。
3. Windows コマンド プロンプトに **ipconfig /release** と入力します。

4. Windows コマンド プロンプトに **ipconfig /renew** と入力します。192.168.75.xxx ネットワーク内の IP アドレスが取得されます。たとえば、次のようになります。

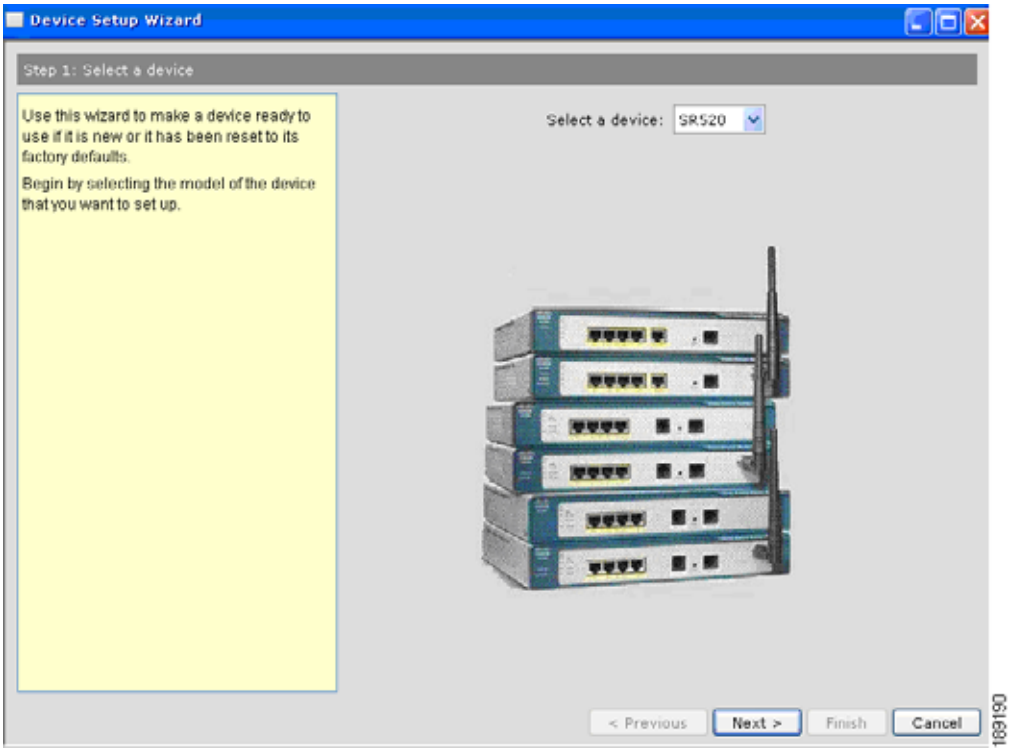
   C:¥temp>**ipconfig /renew**

   Windows IP Configuration

   Ethernet adapter Local Area Connection:

   Connection-specific DNS Suffix.: cisco.com
   IP Address. . . . . : 192.168.75.11
   Subnet Mask . . . . . : 255.255.255.0
   Default Gateway . . . . . : 192.168.75.1

ステップ 2　[セットアップ（Setup）] > [デバイスの設定ウィザード（Device Setup Wizard）] に移動します。



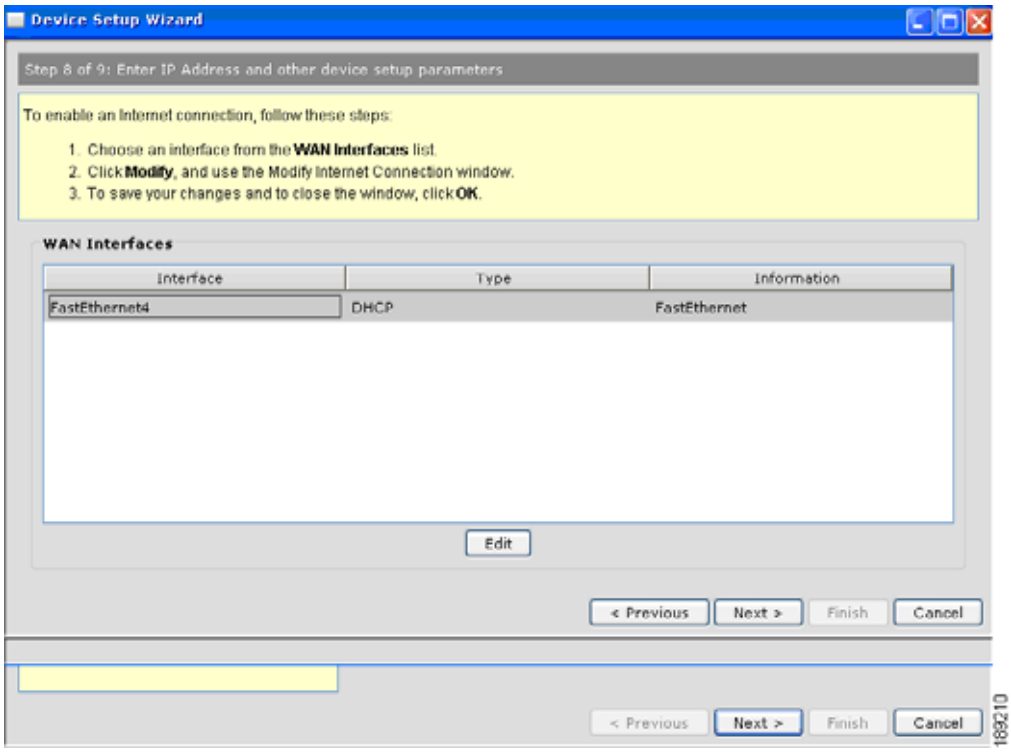
ステップ 3　[デバイスの選択（Select a device）] メニューから [SR500] を選択して、[次（Next）] をクリックします。

ステップ 4　デバイスの接続が確認できるまで [次（Next）] をクリックします。デバイスの接続が確認できるまで 2 ～ 3 分かかる可能性があります。

ステップ 5　Cisco SR500 管理者のユーザ名およびパスワードを入力します。デフォルトのユーザ名は **admin** です。デフォルトのパスワードは **admin** です。

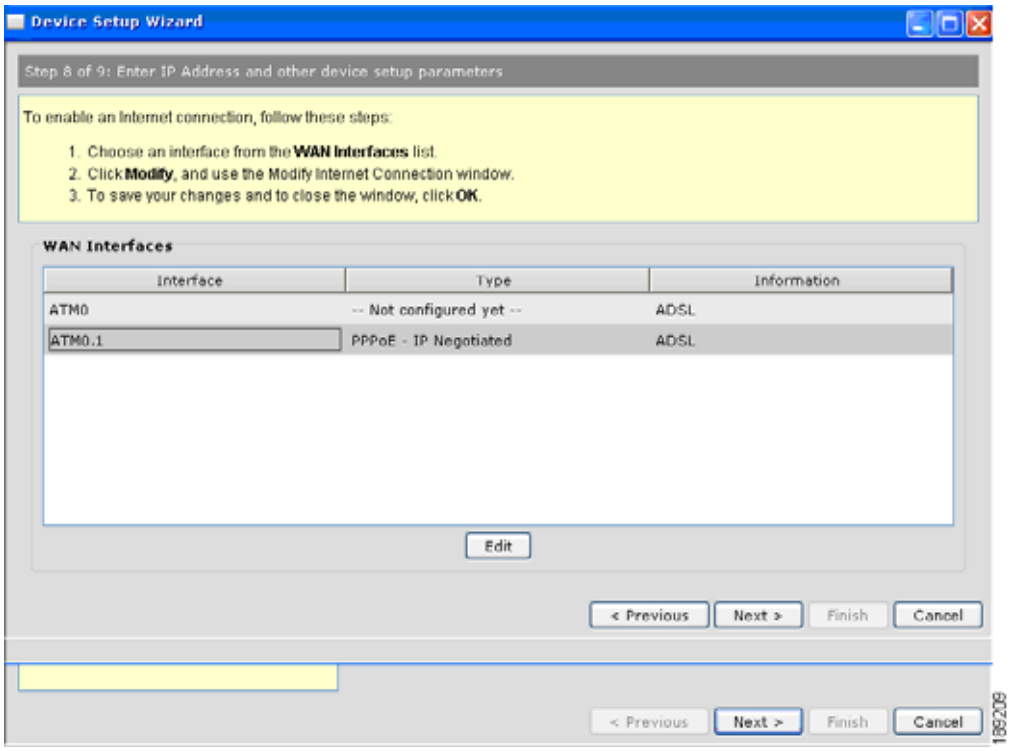
ステップ 6　[PC との同期（Synchronize with PC）] チェックボックスがオンになっていることを確認します。これにより、UC500 の日時設定が PC と同期されます。[次（Next）] をクリックします。

ステップ 7　WAN ファスト イーサネットを使用している場合は、次のウィンドウが表示されます。



[Fastethernet4] を選択して [編集（Edit）] をクリックします。

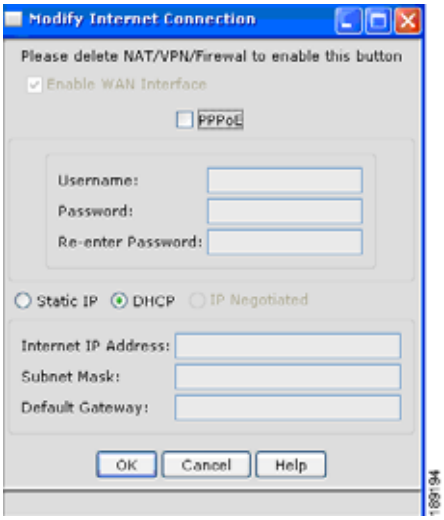
ADSL を使用している場合は、次のウィンドウが表示されます。



[ATM0.1] を選択して [編集（Edit）] をクリックします。

ステップ 8　Cisco SR500 のインターネット接続の設定を指定して、[OK] をクリックします。これらの設定は、インターネットへの接続に使用しているプロバイダーと WAN タイプによって異なります。たとえば、次のようになります。

ファスト イーサネットでの DHCP

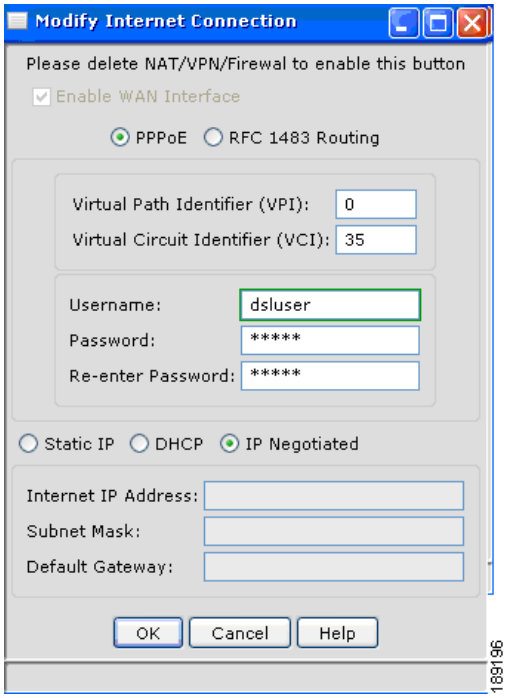


ファスト イーサネットでの Point-to-Point Protocol Over Ethernet（PPPoE）

ユーザ名とパスワードは、インターネット サービス プロバイダーによって指定されたアカウント情報と一致している必要があります。

ADSL での PPPoE

ユーザ名とパスワードは、インターネット サービス プロバイダーによって指定されたアカウント情報と一致している必要があります。



ステップ 9　[次（Next）] をクリックします。設定を確認します。変更を加えたい場合は [前（Previous）] をクリックします。それ以外の場合は [終了（Finish）] をクリックします。1 ～ 2 分後に、概要メッセージが表示されます。

ステップ 10　[閉じる（Close）] をクリックします。

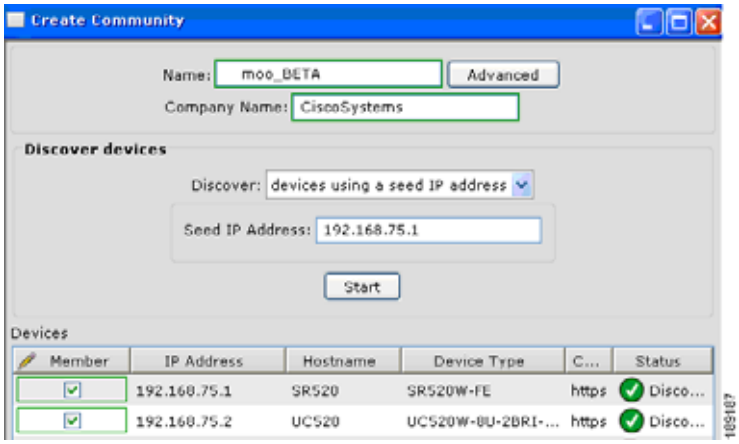
これで Cisco SR500 の設定が完了しました。

コミュニティの作成

Cisco UC500 と Cisco SR500 の両方を含むコミュニティを作成するには、次の手順に従います。

ステップ 1　Configuration Assistant を起動し、[接続（Connect）] ウィンドウで [コミュニティの作成（Create community）] を選択します。[接続（Connect）] をクリックします。

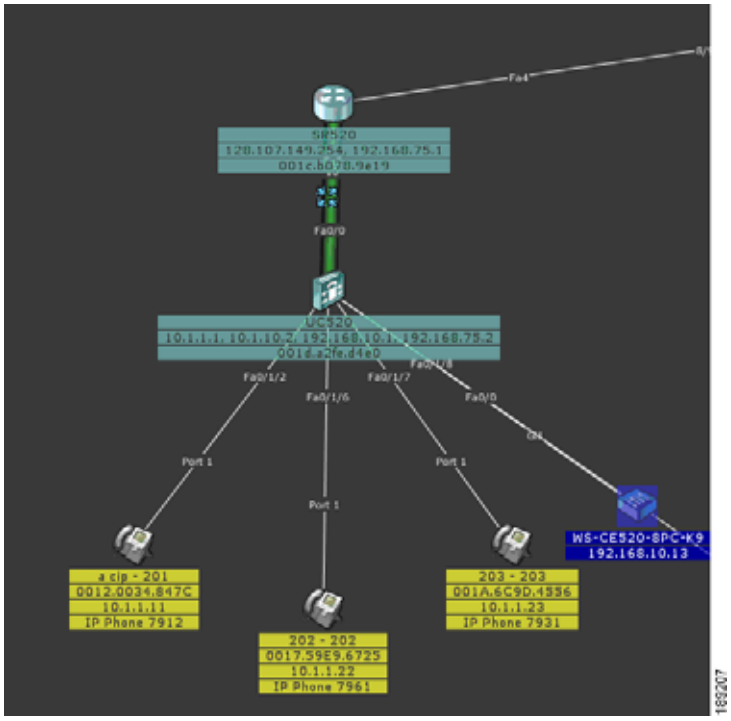
ステップ 2　[コミュニティの作成（Create Community）] ウィンドウで、コミュニティの名前を入力します。



ステップ 3　Cisco SR500 の IP アドレスを [起点 IP アドレス（Seed IP Address）] フィールドに入力します。[開始（Start）] をクリックします。

ステップ 4　プロンプトが表示されたら、Cisco UC500 および Cisco SR500 管理者のユーザ名とパスワードを入力します。[OK] をクリックします。

ステップ 5　トポロジ ビューで、Cisco UC500 が Cisco SR500 の後ろに接続されていることを確認します。



ステップ 6　[設定（Configure）] > [設定の保存（Save Configuration）] に移動します。

ステップ 7　[ホスト名（Hostname）] メニューから [全デバイス（All Devices）] を選択します。[保存（Save）] をクリックします。

これで設定が完了しました。

Cisco Configuration Assistant PC を Cisco UC500 または Cisco SR500 の LAN ポートに接続して、作成したコミュニティにアクセスできるようになりました。これにより、ネットワークを監視し、デバイスの設定を変更することが可能です。

PC、IP フォン、プリンタ、スイッチ、アクセス ポイントなどのすべての LAN デバイスから WAN またはインターネットへアクセスするためには、それらの LAN デバイスを Cisco UC500 の LAN ポートに接続する必要があります。UC500 に接続された LAN デバイスは、Cisco SR500 でイネーブルにしたセキュリティ機能によって保護されているため、WAN およびインターネットに安全にアクセスできます。

Web サーバまたは電子メール サーバなどの Demilitarized Zone（DMZ）デバイスを Cisco SR500 に接続することも可能です。

CHAPTER 6

メンテナンスとアップグレード

この章では、Cisco Configuration Assistant（CCA）を使用して実行できる次のメンテナンス タスクについて説明します。

- 「設定のバックアップと復元」（P.6-1）
- 「ソフトウェア ライセンスのアップグレード」（P.6-3）
- 「UC500 ソフトウェア パッケージのアップグレード」（P.6-4）
- 「デバイスの再起動とリセット」（P.6-6）

設定のバックアップと復元

このセクションでは、すべてのデバイスまたは単一の管理デバイスの起動設定を PC またはネットワーク ドライブにバックアップする手順と、以前にバックアップした設定を復元する方法について説明します。

- 「設定をバックアップするには」（P.6-1）
- 「バックアップから設定を復元するには」（P.6-2）
- 「バックアップの環境設定」（P.6-2）

設定をバックアップするには

管理デバイスまたはすべてのデバイスの起動設定をバックアップするには、次の手順に従います。

ステップ 1 CCA を起動して UC500 に接続します。

ステップ 2 機能バーから [メンテナンス（Maintenance）] > [設定の保存（Configuration Archive）] を選択します。

ステップ 3 [設定の保存（Configuration Archive）] ウィンドウから [バックアップ（Back Up）] タブをクリックして、管理デバイスの起動設定を PC またはネットワーク ドライブにバックアップします。

ステップ 4 [ホスト名（Hostname）] リストから、[全デバイス（All Devices）]、または起動設定をバックアップするデバイスを選択します。

ステップ 5 [バックアップのメモ（Backup Note）] テキスト エリアに、復元するバックアップ済みの設定を識別するために後で役立つ情報を入力します。

ステップ 6　[バックアップ（Back Up）] をクリックします。

設定のバックアップは、[バックアップ ディレクトリ（Backup Directory）] フィールドに示されたディレクトリにアーカイブされ、[復元（Restore）] タブにそのイベントが記録されます。

ヒント　バックアップ ディレクトリに蓄積されたアーカイブ済み設定は削除できます。デフォルト ディレクトリは C:¥Documents and Settings¥<*username*>¥.configuration assistant¥backups です。

ステップ 7　[OK] をクリックします。

バックアップから設定を復元するには

（注）　設定は、バックアップを実行した同じ UC500 ハードウェアにしか復元できません。2 つの異なる UC500 システム間での設定の移行はサポートされていません。

以前バックアップした設定を、管理デバイスの起動設定に復元するには、次の手順に従います。

ステップ 1　CCA を起動して UC500 に接続します。

ステップ 2　機能バーで [メンテナンス（Maintenance）] > [設定の保存（Configuration Archive）] を選択します。

ステップ 3　[ホスト名（Hostname）] リストから、復元対象のデバイスを選択します。

ステップ 4　ボタンをクリックして、[バックアップ済み設定（Back-Up Configurations）] リストに示すバックアップ済み設定の範囲を決定します。

一番上のボタンをクリックすると、選択したデバイスからバックアップした設定だけが表示されます。中央のボタンをクリックすると、選択したデバイスからバックアップした設定に加えて、コミュニティ内に存在する同タイプのその他すべてのデバイスからバックアップした設定も表示されます。一番下のボタンをクリックすると、バックアップ ディレクトリ内のすべてのバックアップ済み設定が表示されます。

ステップ 5　[バックアップ済み設定（Back-Up Configurations）] リストから、復元する設定を選択します。

[バックアップ ノート（Backup Note）] テキスト エリアの内容を読み、選択した設定が本当に目的の設定であることを確認してください。

ステップ 6　[復元（Restore）] をクリックします。

ステップ 7　設定が復元された後に [再起動（Restart）] をクリックし、そのデバイスを再起動します。

バックアップの環境設定

別のディレクトリにバックアップする場合、[環境設定（Preferences）] をクリックして、環境設定ウィンドウを開き、[コンフィギュレーション アーカイブ（Configuration Archive）] タブで別のパスやディレクトリを入力します。

このタブには、ユーザがバックアップする前に実行中の設定を自動的に保存するオプションもあります。このオプションを選択しないと、実行中の設定が起動設定と異なる場合に、Configuration Assistant はその保存を促すプロンプトを表示します。

ソフトウェア ライセンスのアップグレード

Smart Business Communications System（SBCS）ソリューション内の Cisco IP フォンは、1 台の電話につき 1 つのライセンスを使用可能という条件で登録されています。ライセンスがすべて使用された場合は、ライセンスをアップグレードするまで、それ以上ユーザを追加することはできません。

Cisco UC500 シリーズ プラットフォームでは、Cisco Software Licensing（CSL; シスコ ソフトウェア ライセンシング）がサポートされるため、プラットフォームをその場でアップグレードまたはダウングレードすることができます。たとえば、8 ユーザのシステムを 16 ユーザ ライセンスに、32 ユーザのシステムを 48 ユーザ ライセンスにアップグレードできます。64 ユーザ ライセンスにアップグレードするには、まず UC500 で 48 ユーザ ライセンスを実行する必要があります。また、ライセンスはダウングレードすることもできます。

Cisco Configuration Assistant は、次の 4 つのタイプのライセンスをサポートしています。

- **永久ライセンス**：永久ライセンスはノード ロック ライセンスであり、関連付けられた使用期限はなく、シスコ ライセンシング ポータルを通して発行されます。このライセンスのインストレーションの一部として、End User License Agreement（EULA; エンドユーザ ライセンス契約書）を承認する必要があります。
- **評価ライセンス**：評価ライセンスは、従量制の非ノード ロック ライセンスであり、Cisco Internetwork Operating System（IOS）イメージにバンドルされ、有効期限があります。このライセンスは、機能の永久ライセンス、拡張ライセンス、または猶予期間ライセンスがない場合にだけ使用します。このライセンスを使用するには、その前に EULA（エンドユーザ ライセンス契約書）を承認する必要があります。
- **拡張ライセンス**：拡張ライセンスは従量制のノード ロック ライセンスであり、シスコ ライセンシング ポータルを通して発行されます。このライセンスのインストレーションの一部として、End User License Agreement（EULA; エンドユーザ ライセンス契約書）を承認する必要があります。
- **猶予期間ライセンス**：猶予期間ライセンスは従量制のノード ロック ライセンスであり、ライセンス再ホスト用の許可チケットの一部としてシスコ ライセンシング ポータルを通して発行されます。このライセンスは、再ホスト操作の一部としてデバイスにインストールされます。このライセンスタイプの場合は、EULA を再ホスト操作の一部として承認する必要があります。

永久ライセンスをインストールするには、次の手順に従います。

ステップ 1　CCA を起動して UC500 に接続します。

ステップ 2　機能バーで [メンテナンス（Maintenance）] > [ライセンス管理（License Management）] を選択します。

ステップ 3　デバイスの [処理（Action）] リストから [ライセンスファイルの選択（Select License File）] を選択します。

[ライセンスファイルのアップロード（Upload License File）] ウィンドウが表示されます。

[参照（Browse）] をクリックし、ライセンス ファイルを検索して選択します。

ステップ 4　[ライセンスファイルのアップロード（Upload License File）] ウィンドウで [OK] をクリックします。

ステップ 5　ライセンス ファイルをダブルクリックします。

ステップ 6　[適用（Apply）] をクリックして、ライセンスをインストールします。関連フィールドが更新されます。

評価ライセンスをインストールするには、次の手順に従います。

ステップ 1　CCA を起動して UC500 に接続します。

ステップ 2　機能バーから [メンテナンス（Maintenance）] > [ライセンス管理（License Management）] を選択します。

ステップ 3　デバイスの [処理（Action）] リストから [評価ライセンス（Evaluation License）] を選択します。

ステップ 4　[適用（Apply）] または [OK] をクリックして、ライセンスをインストールします。関連フィールドが更新されます。

UC500 ソフトウェア パッケージのアップグレード

CCA には、SBCS ソリューションで使用されるソフトウェアをアップグレードできる機能が組み込まれています。同じ手順を使用して、既存のバージョンを上書きしてソフトウェア コンポーネントを出荷時のデフォルトに復元することもできます。

（注）　Cisco Configuration Assistant を実行している PC にインストールされているすべてのファイアウォール ソフトウェアで、UC500 からの Trivial File Transfer Protocol（TFTP）および FTP アクセスを許可するように設定します。ファイアウォール ソフトウェアの設定方法がわからない場合は、アップグレードしている間だけディセーブルにします。

アップグレードの前に、ローカル マシンで実行されているサードパーティ製のすべての TFTP または FTP サーバをシャットダウンしてください。

SBCS ソリューションのソフトウェア コンポーネントをアップグレードするには、次の手順に従います。

ステップ 1　Cisco.com から、目的のバージョンの UC500 Software Pack をダウンロードします。これには、次の操作を実行します。

a. Web ブラウザを開き、次の URL にアクセスします。

http://www.cisco.com/go/uc500swpk

b. CCO アカウント ユーザ名とパスワードを使用してログインします。

c. スクロール ダウンして [Accept] をクリックし、ライセンス契約を承認します。

UC500 の Cisco Systems File Exchange ページが表示されます。これには、UC500 Software Pack、UC500 CUE Localization、および UC500 IP Phone Localization のフォーラムが含まれています。

d. UC500 Software Pack を見つけて、現行リリースの UC500 ソフトウェア パッケージ .zip ファイル（たとえば UC520-.7.0.2.zip）をダウンロードします。

e. ファイルをローカル マシンに保存します。

（注）　CCA がアップグレードをサポートするのは、UC500 早期アダプタ パックだけです。早期アダプタ ソフトウェア パックへのアップグレード後は、UC500 の設定を Cisco Configuration Assistant 以外で実行する必要があります。

ステップ 2　CCA を起動して UC500 に接続します。

ステップ 3　機能バーから [メンテナンス（Maintenance）] > [ソフトウェア アップグレード（Software Upgrade）] を選択します。

ステップ 4　[ソフトウェア アップグレード（Software Upgrade）] ウィンドウで、アップグレードするデバイスを選択します。

ステップ 5　[アップグレード設定（Upgrade Settings）] をクリックします。

[アップグレード設定（Upgrade Settings）] ダイアログが表示されます。zip ファイルを選択し、アップグレードするコンポーネントを決定してください。

ステップ 6　[全ソフトウェア（All Software）] オプション ボタンをクリックすると、Software Pack 全体がインストールされます。オプションで、Cisco IOS だけ、または CUE（Cisco Unity Express）だけをアップグレードすることも可能です。

ステップ 7　[自動ディスククリーンアップ（Auto Disk Cleanup）] か [デフォルト設定の適用（Apply Default Configuration）]、またはその両方をイネーブルにするかどうかを選択します。

新規インストールでは、[自動ディスククリーンアップ（Auto Disk Cleanup）] と [デフォルト設定の適用（Apply Default Configuration）] の両方を選択することを推奨します。

- [自動ディスククリーンアップ（Auto Disk Cleanup）] を選択すると、UC500 フラッシュ上のすべての既存ファイルが削除され、選択した UC500 Software Pack に含まれている最新のソフトウェア バージョンのファイルに置換されます。
- [デフォルト設定の適用（Apply Default Configuration）] を選択すると、UC500 で出荷時のデフォルト設定が復元されます。ソフトウェアを既存の設定のままアップグレードする場合は、[デフォルト設定の適用（Apply Default Configuration）] の選択を解除してください。[デフォルト設定の適用（Apply Default Configuration）] の選択を解除すると、アップグレードが実行される前に CCA によって既存の設定がバックアップされ、後で復元されます。既存の設定データのサイズによっては、アップグレードの完了に時間がかかる場合があります。

ステップ 8　**イメージ ファイル**を選択するには、[参照（Browse）] をクリックして以前ダウンロードした新しいディレクトリ構造形式を持つ .tar イメージのある場所に移動し、それを選択します。

ステップ 9　[OK] をクリックします。

ポップアップ ダイアログに、選択されたアップグレード処理の概要が警告メッセージと共に表示されます。

ステップ 10　[はい（Yes）] をクリックして、続行します。

ステップ 11　[ソフトウェア アップグレード（Software Upgrade）] ウィンドウで [アップグレード（Upgrade）] ボタンをクリックして、ソフトウェア パッケージのアップグレードを開始します。アップグレード プロセス中は、ステータスを示すメッセージが表示されます。

アップグレード プロセスは、アップグレードされるコンポーネントによって 60 分ほどかかる場合があります。経過を表示するには [ステータス（Status）] をクリックします。

ステップ 12　アップグレードが完了し、デバイスのリロードについてプロンプトが表示されたら、[はい（Yes）] をクリックします。

デバイスの再起動とリセット

コミュニティ内のデバイスは、*再起動*するか、出荷時のデフォルトに*リセット*することができます。

デバイスを再起動すると、アクティブな設定ファイルが保存されて、再び起動します。再起動中のデバイスにはアクセスできず、デバイスと端末の接続はしばらく中断されます。

デバイスをリセットすると、出荷時の設定が復元されます。デバイスはリセットしたら、Configuration Assistant で管理するためにもう一度セットアップする必要があります。このタスクには、デバイスの設定ウィザードを使用できます。詳細については、オンライン ヘルプのトピックを参照してください。

（注） デバイスをリセットすると、リセットされたデバイスに DHCP サーバが新たな IP アドレスを割り当てることがあります。このような場合は、CCA トポロジ ビューにデバイスが到達不能であることが示され、デバイスの設定ウィザードを使用してデバイスを新たな IP アドレスでコミュニティにもう一度追加する必要があります。

コミュニティ内のデバイスを再起動またはリセットするには、次の手順に従います。

ステップ 1　CCA を起動してログインします。

ステップ 2　機能バーから [メンテナンス（Maintenance）] > [再起動 / リセット（Restart/Reset）] を選択します。

[再起動 / リセット（Restart/Reset）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3　再起動またはリセットしたいデバイスを選択します。

ステップ 4　次のいずれかを実行します。

- [再起動（Restart）] チェックボックスをオンにする。
- [出荷前のデフォルトにリセット（Reset to Factory Defaults）] チェックボックスをオンにする。
- 両方のオプションをオンにする。

ステップ 5　[適用（Apply）] をクリックすると変更は適用されますが、[再起動 / リセット（Restart/Reset）] ウィンドウは開いたままになります。

ステップ 6　[OK] をクリックします。

CHAPTER 7

SBCS の計画、設計、および実装のサポート

シスコは、お客様とそのカスタマーの皆様に Cisco Smart Business Communications System（SBCS）と Cisco Configuration Assistant の便利な機能を最大限にご利用いただくため、広範囲にわたる計画、設計、実装のためのサポート リソースを提供しています。

この章では次のリソースについて説明します。

- 「製品マニュアル」（P.7-1）
- 「Cisco Small Business Support Community サイト」（P.7-2）
- 「PDI ヘルプ デスク」（P.7-2）
- 「Cisco Smart Design マニュアル」（P.7-3）

製品マニュアル

次の表に、Cisco.com で利用できる関連する技術マニュアルの URL リストを示します。

製品	Cisco.com 内の URL
Cisco Configuration Assistant（CCA）	www.cisco.com/en/US/products/ps7287/tsd_products_support_series_home.html
Cisco Smart Business Communications System（SBCS）	www.cisco.com/go/sbcs-docs
Cisco UC500 シリーズ	www.cisco.com/en/US/products/ps7293/tsd_products_support_series_home.html
Cisco 500 シリーズ セキュア ルータ	www.cisco.com/en/US/products/ps9305/tsd_products_support_series_home.html

Cisco Small Business Support Community サイト

Cisco Small Business Support Community サイトでは、VAR（付加価値再販業者）およびパートナーが Cisco SBSC プラットフォームの設計、実装、メンテナンスを行うときに役立つリソースを提供しています。

Cisco Small Business Support Community にアクセスするには、Web ブラウザで次の URL にアクセスします。

https://www.myciscocommunity.com/community/smallbizsupport

リソースには次のものが含まれます。

- 製品、技術、または国を中心とするネイバーフッドのサポート。たとえば、Cisco SBCS/UC500 のネイバーフッドのサポートにアクセスするには、[Product] > [SBCS/UC500] を選択します。
- ディスカッション フォーラム（メッセージを投稿するには CCO ログインが必要ですが、メッセージを閲覧する場合は不要です）
- サポート ビデオ オン デマンド（VOD）およびチュートリアルのライブラリを含むトレーニング リソース
- 次のシスコ サポート リソースへのリンク
  - 販売サポート ツール
  - 設計および配置ツール
  - コンフィギュレーション ガイドおよびアプリケーション ノート
  - UC500 ソフトウェア ダウンロード
  - SBCS 保証情報
  - Small & Medium Business（SMB）University

PDI ヘルプ デスク

Planning, Design, and Implementation Help Desk（PDI HD; PDI ヘルプ デスク）では、Cisco Unified Communications スペシャライズド パートナーに Unified Communications および Unified Contact Center ソリューションの計画、設計、実装時の追加サポートを提供します。

PDI ヘルプ デスクに問い合わせできるのは、ネットワークまたはビジネスに影響を及ぼさない導入前（計画、設計、または実装）の問題に限定されます。PDI ヘルプ デスクの URL は、次のとおりです。

http://www.cisco.com/go/pdihelpdesk（パートナー ログインが必要）

または、次の番号に電話します。

1-800-GO-CISCO（エージェントに「PDI ヘルプ デスク」の呼び出しを依頼）

Cisco Smart Design マニュアル

シスコの SBCS Smart Design マニュアルには、ネットワーク ソリューションの設計および実装に関するベスト プラクティスが記載されています。この簡略化されたテスト済みのネットワーク ソリューションは、複雑さとリスクを最小限に抑えてパートナーの利便性を最大限に追求することを目的としています。アクセスには、パートナー ログインが必要です。

SBCS Smart Design マニュアルを表示するには、次の URL にアクセスします。

www.cisco.com/go/partner/smartdesigns

INDEX

C

CDP、コミュニティ内での使用 4-2
Cisco Discovery Protocol
　「CDP」を参照
Configuration Assistant
　GUI 2-1
　インストール
　　手順 3-2
　　要件 3-1
　起動 3-2
　紹介 1-1
　接続 3-2
Configuration Assistant のインストール
　手順 3-2
　要件 3-1

D

DHCP リース 5-8
DMZ 5-3, 5-14
DNS サーバ 5-6

I

IP アドレス
　シード 5-13
IP アドレスの要件 4-1

P

PPPoE 5-12

S

SR500 5-1
　管理者のデフォルトのユーザ名 5-9
　コミュニティ 5-13
　デフォルトのパスワード 5-9

U

UC500 5-1
　管理者のデフォルトのユーザ名 5-4
　コミュニティ 5-13
　デフォルトのパスワード 5-4

V

VLAN 1 IP アドレス 5-7

W

WAN のタイプ 5-11

あ

アクセス、コミュニティへの 4-2

い

イベント、通知 3-5

え

エキスパート モード 2-8

お

音声メール
言語 5-6
オンライン ヘルプ 2-10

か

ガイド モード 2-7

き

起動、Configuration Assistant の 3-2
機能
エキスパート モード 2-8
オンライン ヘルプ 2-10
ガイド モード 2-7
機能バー 2-4
前面パネル ビュー 2-3
ツールバー 2-6
トポロジ ビュー 2-2
メニューバー 2-4
機能バー 2-4

け

言語 5-6
検出、コミュニティ
「自動検出」を参照

こ

コミュニティ
アクセス 4-2
確認 4-4
管理、ローカル PC 4-3
計画の注意事項
情報の識別 4-3
パスワード 4-3
ホスト名 4-2
構成 4-1
候補
検出 4-4
「コミュニティ メンバ」も参照
追加 4-4
定義 4-1
メンバの自動検出 4-2 ～ 4-4
要件 4-1
コミュニティ情報 4-3
コミュニティ名 4-2
作成 4-3
識別情報の保存 4-3
自動検出 4-2 ～ 4-4
制限 4-1
通信プロトコル 4-3
特性 1-2
メンバ
自動検出 4-2 ～ 4-4
追加 4-4
ホスト名 4-2
要件 4-1
メンバの追加 4-4
利点 1-1
コミュニティにおけるデバイスの制限 4-1
コミュニティの制限 4-1

し

シード IP アドレス 5-13
自動検出
コミュニティ内 4-2
注意事項
CDP 非対応デバイス 4-4
接続 4-2
メンバの追加 4-4
「CDP」を参照

せ

接続、Configuration Assistant の 3-2
セットアップ、デバイスの 3-5

た

対話モード 2-7

つ

ツールバー 2-6

て

デバイス、セットアップ 3-5
電話機、言語 5-6

と

トポロジ ビュー 2-2, 5-14

ね

ネットワーク アドレス変換（NAT） 5-2
ネットワーク イベント、通知 3-5

は

パスワード、プロンプト 4-3

ひ

非対称デジタル加入者線（ADSL） 5-1, 5-8

ふ

ファイアウォール 5-3
ファスト イーサネット 5-12

ほ

ポート、デバイスの接続設定 2-9
ホスト名、割り当てる理由 4-2

め

メニューバー 2-4
メンバ デバイス、追加 4-4